

平成23年度

教育・研究活動報告書

(取組成果のご報告)

FIT 学校法人
福岡工業大学

福岡工業大学 / 福岡工業大学短期大学部

工学部

電子情報工学科
生命環境科学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科(文系)

大学院

工学研究科
社会環境学研究科(文系)

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科

お問い合わせ先

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30-1
TEL 092-606-3131(代)

For all the students

～すべての学生生徒のために～



九州NO.1の教育拠点を目指して

本学園の運営につきましては、日頃から格別のご理解とご支援をいただき深く感謝いたします。

さて、今日の日本経済は、円高、海外経済の急減速に伴う輸出の大幅な落ち込みを主因として足踏み、もしくは後退の状態にあります。このような中で、産業界における企業の経営はBRICS諸国など新興国の台頭による国際競争の激化、急激な円高、人口減少と少子高齢化による社会活力低下、経済規模の縮小等の熾烈な環境に晒され、総じて逆風の中にあると言えます。このような環境変化は、日本型雇用慣行の変容を加速し、グローバル化をいっそう進展させると共に、社会のあらゆるところに歪みを生じさせ、複合的格差問題、人間関係の希薄化・規範意識の低下等の新たな問題を招いています。これらは、今日の地球環境問題、食糧・エネルギー問題と共に、教育機関としても極めて重要な課題として認識すべきところであり、我々は使命感に依って、全方位的、かつ迅速な対応を迫られていると言えます。

本学では、早期からこのような厳しい現状認識と将来予測のもとに、中長期経営計画による経営管理システムを導入し、事後評価の徹底とその結果に基づく継続的改善の考え方(成果主義を基本としたPDCAによる企業の経営管理の手法)を実践し、全教職員が一心協力して諸計画の実現性の向上と、いっそうの取組成果の拡大に努めてきました。

今日、教育改善、研究高度化、就職教育、並びに就職支援の全ての領域で相応の成果が生じ、平成24年度の入学志願者は大学が6年連続、短大は3年連続で増加し、附属高校も9年連続で増加の傾向にあります。

他方、様々な教育改善・研究高度化の取組や施設・設備、すなわち環境整備への積極投資、経営改革システムの導入等が「他大学等のモデルになり得る」として、文科省はじめ多くの学校関係者から評価を受け、継続して国の推進事業に選定、または関係の研究誌等で高く評価されています。

私学の多くが定員割れや帰属収支差額の赤字を抱える状況において、本学は安定的に黒字を継続(平成23年度決算において7年連続)し、経営財務の外部評価(格付投資情報センター(R&I))では、継続して「A(格付の方向性は安定的)」¹⁾との評価を受けることができました。

しかし、私たちはこの現状に満足することなく、いっそうの改革・改善を推し進め、社会の変革に適応力の高い、強い人材の育成によって、地域社会さらには国際社会に貢献することを目指してまいります。

本報告書は、学生・生徒・保護者の皆様そして学校運営にご支援をいただく関係の皆様へ、詳しく教育・研究・経営・財務の活動状況をお知らせすることを目的としております。どうかご理解をいただき、本学園を皆様方が将来を切り開かれるステージとしてご活用いただければ幸甚に存じます。

*1: R&I社の符号の定義によると「A」評価は「信用力が高く、部分的に優れた要素がある」ことを示しています。

平成24年6月1日
福岡工業大学／福岡工業大学短期大学部
学長 **下村 輝夫**

INDEX

- 学長メッセージ…………… P01
- キャンパス概要…………… P03
- 学校法人の概要…………… P05
- 平成23年度ハイライト…………… P07
- 大学・大学院の取組
 - 就業力育成に向けた取組…………… P15
 - 就職支援…………… P17
 - 教育改善…………… P19

- 大学間連携教育…………… P21
- 資格教育…………… P22
- 課外での創造性教育…………… P23
- 国際教育…………… P25
- 学生支援…………… P27
- クラブ・サークル支援…………… P28
- 研究活動…………… P29

- 短大の取組
 - 進路保証に向けた取組…………… P31
 - 学習支援とプロジェクト学習…………… P33
- 地域貢献…………… P35
- 施設・設備…………… P37
- 経営・財務…………… P39
- データ集…………… P41

キャンパス概要

- ① A棟
- ② B棟
- ③ C棟
- ④ D棟
- ⑤ FITアリーナ
- ⑥ 本部棟
- ⑦ α棟
- ⑧ FITホール
- ⑨ 大学クラブハウス
- ⑩ 高電圧実験棟
- ⑪ 附属城東高校
- ⑫ セミナーハウス
- ⑬ 高校体育館
- ⑭ 高校クラブハウス
- ⑮ コスモス寮(女子寮)
- ⑯ 新宮総合グラウンド
- ⑰ 坦心寮(男子寮)
- ⑱ 和白グラウンド
- ⑲ JR福工大前駅
- ⑳ おとめが池



駅と大学が直結!
JR「福工大前駅」は本学に直結しており、快速も停車。



塩浜総合グラウンド竣工
平成24年3月に野球場(FITスタジアム)、室内練習場、多目的グラウンドからなる、塩浜総合グラウンドが竣工しました。本施設建設にあたり、「礼節を重んじる人格の陶冶」を精神として定め、スポーツを通じた人間力形成の場として活用していきます。

主要設備

環境に配慮した設備



ソーラーシステム



屋上庭園



コージェネレーションシステム

先進的研究と実践的教育の基盤となる設備



エレクトロニクス研究所



情報科学研究所



環境科学研究所



次世代マイクロ/ナノ金型開発センター



半導体デバイス製作実験センター



モノづくりセンター



情報処理センター



図書館



工作センター

快適なキャンパスライフと地域貢献の拠点



FITアリーナ



FITホール



レストランOASIS

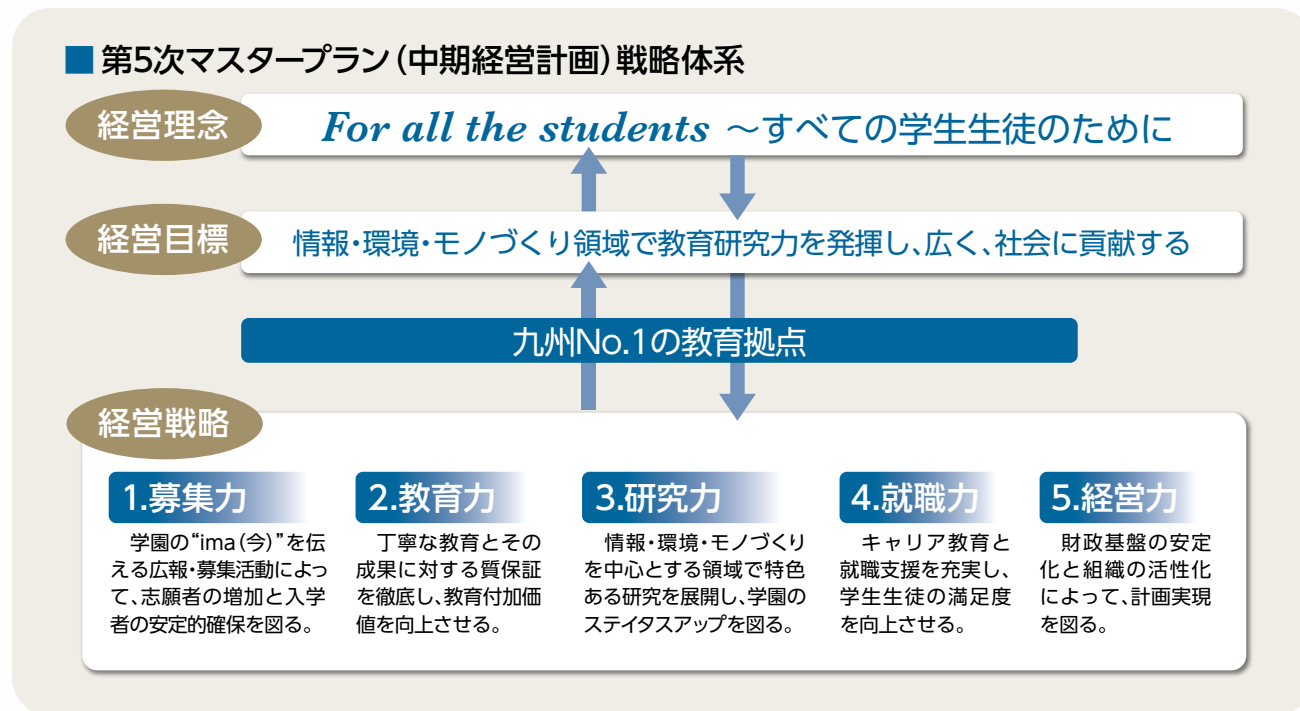


福岡工業大学キャンパスは「全面禁煙」です。

本学は、平成23年度より学生・教職員・学内外関係者の健康増進を目的として、キャンパス敷地内を「全面禁煙」としています。

学校法人の概要

経営理念、経営目標と経営戦略



沿革

- 昭和29年 福岡高等無線電信学校創設
- 昭和33年 学校法人福岡電波学園福岡電波高等学校開設
- 昭和35年 福岡電子工業短期大学開設
- 昭和38年 福岡電波学園電子工業大学開設、同工学部開設
- 昭和41年 大学の名称を福岡工業大学に、短期大学の名称を福岡工業短期大学に変更
- 昭和48年 法人の名称を学校法人福岡工業大学に変更
- 昭和49年 高校の名称を福岡工業大学附属高等学校に変更
- 平成 5年 大学院工学研究科(修士課程)開設
- 平成 9年 大学に情報工学部開設
- 平成11年 大学院工学研究科(博士後期課程)開設
- 平成13年 大学に社会環境学部開設
高校の名称を「福岡工業大学附属城東高等学校」に変更
- 平成14年 短期大学の名称を「福岡工業大学短期大学部」に変更
- 平成19年 大学院社会環境学研究科(修士課程)開設

設置校

福岡工業大学



- 工学部**
- 電子情報工学科
 - 生命環境科学科
 - 知能機械工学科
 - 電気工学科
- 情報工学部**
- 情報工学科
 - 情報通信工学科
 - 情報システム工学科
 - システムマネジメント学科
- 社会環境学部**
- 社会環境学科
- 大学院**
- 工学研究科
 - 社会環境学研究科

福岡工業大学短期大学部



- 情報メディア学科
- ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校



- 普通科**
- I類
 - II類
 - III類
- 工業科**
- 電気科
 - 電子情報科

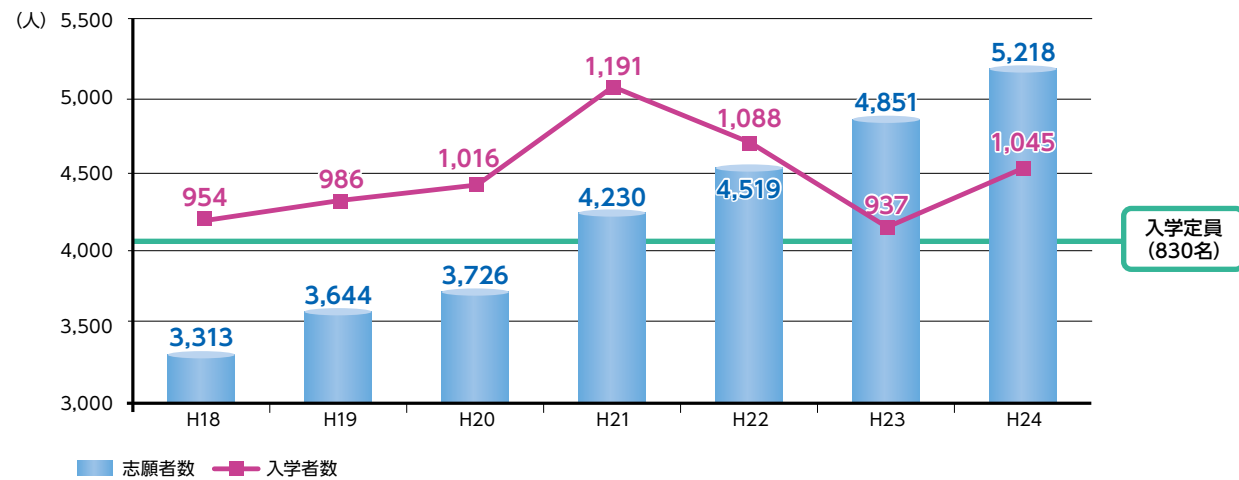
教育改善の取組が幅広い志願者層からの評価を得て、大学・短大ともに継続して志願者が増加しています。

大学の入試状況 – 6年連続志願者増、過去12年間で最大の志願者数に

平成24年度入試の志願者数は、各入試区分（一般入試、推薦入試）の総計が延べ5,218人で、6年連続志願者増となり、社会環境学部開設以来過去12年間で最大の志願者数となりました。なお、実質志願倍率は工学部平均1.8倍、情報工学部平均2.0倍、社会環境学部平均1.1倍となりました。各高校のニーズに合わせた学生募集活動や、種々の教育改善の評価が高まり、18歳人口の減少に関わらず、着実に志願者・入学者を確保しています。

入試詳細データはP46

■志願者・入学者推移

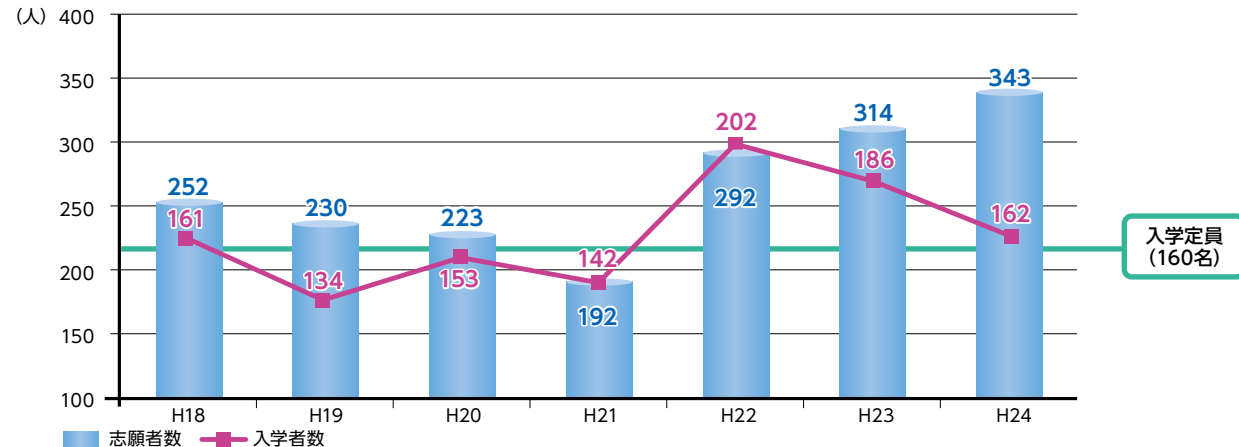


短大の入試状況 – 全国の短大の約66%が定員割れとなる中、3年連続志願者が増加

短期大学部は平成20年度に私学事業団の「未来経営戦略推進経費」の採択を受け、以降様々な教育改善・経営改善に取り組んできました。進路保証を核とした改革の取組が評価され、全国の短大の約66%が定員割れとなる中、3年連続志願者数が増加し、着実に入学定員を確保しています。

入試詳細データはP46

■志願者・入学者推移



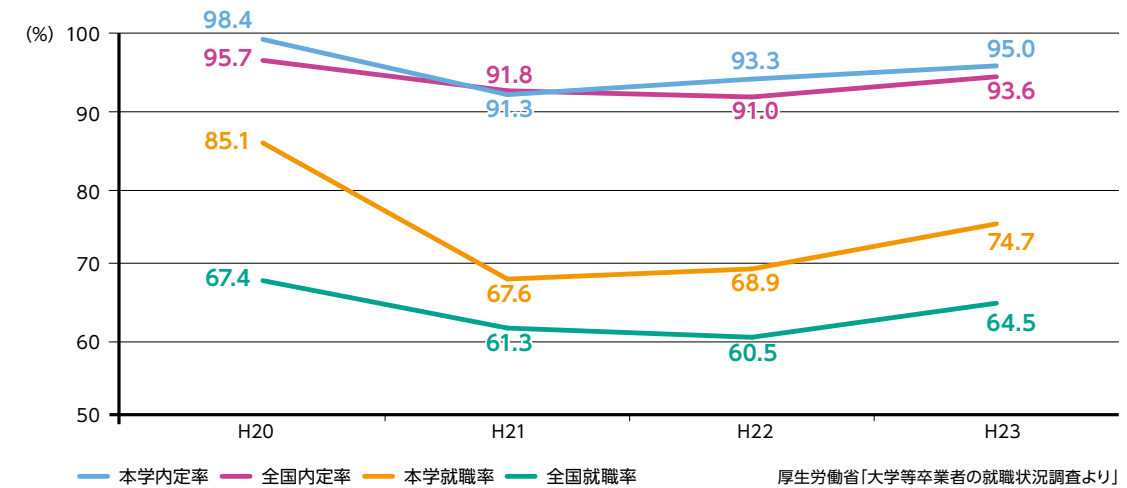
教職員一体となった就職教育や就職支援の取組が奏功し、就職率が大幅に向上しています。

大学の就職状況 – 厳しい新卒採用状況の中、全国平均を上回る内定率、就職率に

近年の経済環境の悪化により、企業の新卒採用数が激減し、学生間の就職先確保競争が激化しています。本学では入学後早期に就業意識を高める取組や、就職活動をやり通すための様々な支援策を継続して実施しており、その結果、平成23年度の就職実績は、内定率95.0%、就職率74.7%となり、いずれも全国の大学平均を上回りました。

就業力育成、就職支援の取組はP15・17、就職実績詳細はP47

■就職実績推移

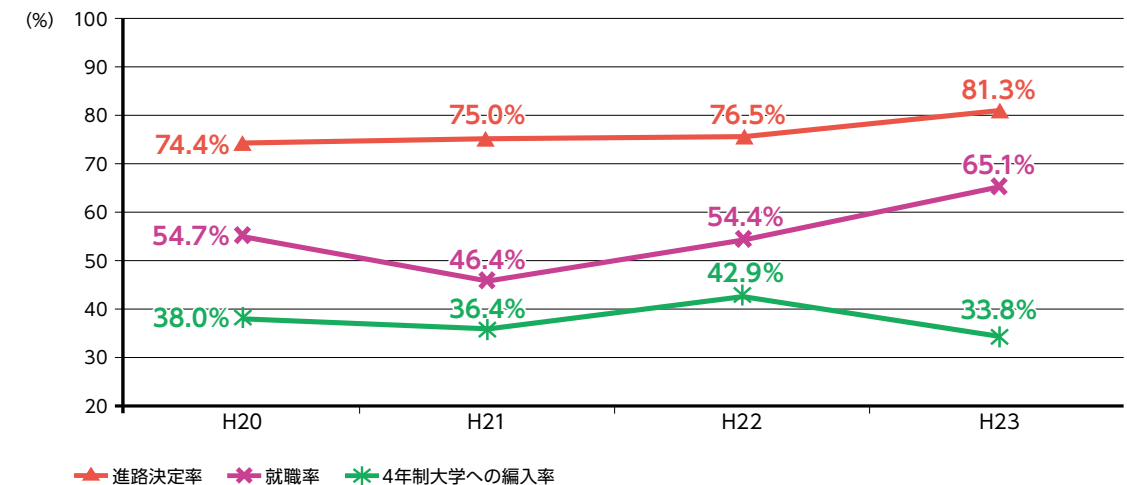


短大の進路状況 – 進路保証プログラムの進展により、進路決定状況が大幅に改善

短期大学部では平成22年度より進路保証プログラムを開始し、進路決定率100%を目指し教職員一丸となった取組を実施してきました。当該プログラムの第一期生が卒業年度となった、平成23年度の進路実績は進路決定率81.3%となり、進路決定状況が大幅に改善しました。

進路保証プログラムの詳細はP31、進路実績詳細はP47

■進路実績推移



“丁寧な教育”を実現するための不断の教育改善は、学生の高いレベルの活動に結実しました。

平成23年度博士号授与者 - 5名に博士号授与



合屋 尚子
物質生産システム工学専攻
(福岡県立博多青松高校)



前川 孝司
物質生産システム工学専攻
(長崎県立長崎工業高校)



孫 可
知能情報システム工学専攻



Admir Barolli
論文博士
(アルパニア・ティラナ農業大学)



Yang Sun Lee
論文博士
(韓国・東新大 東新大学)

平成23年度学長表彰 - 11団体・269名に学長表彰

大学

成績優秀者

- 城 達也 電子情報工学科(福岡県立武蔵台高校)
- 植 田 巨 生命環境科学科(高知県立高知工業高校)
- 木 下 順 司 知能機械工学科(長崎県立島原高校)
- 河 野 昌 大 電気工学科(福岡県立小倉南高校)
- 竹 牟 礼 宏 情報工学科(鹿児島県立大川高校)
- 井 上 将 太 情報通信工学科(福岡県立浮羽工業高校)
- 梶 原 商 成 情報システム工学科(福岡県立福岡講倫館高校)
- 山 口 翔 太 システムマネジメント学科(佐賀県立三養基高校)
- 井 上 賢 太 社会環境学科(福岡県立小倉東高校)

第40回福岡六大学野球春季リーグ戦

- ベストナイン、打撃10傑
- 椎 屋 騰 社会環境学科(大分県立柳ヶ浦高校)

打撃10傑

- 池 裕 樹 社会環境学科(大分県立国東高校)

打撃10傑

- 木津龍太郎 電気工学科(大分県立鶴崎工業高校)

第40回福岡六大学野球秋季リーグ戦

- ベストナイン、新人賞、打撃10傑
- 黒 水 大 輔 システムマネジメント学科(附属城東高校)

平成23年度福岡県大学準硬式野球秋季リーグ戦

- ベストナイン
- 野見山徳人 電気工学科(福岡県立門司高校)
- 石 川 拓 弥 電子情報工学科(福岡県立柏陵高校)

第61回九州地区大学体育大会優勝

- 第19回九州学生リーグI部 決勝リーグ 優勝
- ラグビー部

第25回九州学生女子柔道体重別選手権大会

- 78kg級優勝
- 山 崎 裕 子 社会環境学科(附属城東高校)

78kg超級優勝

- 木 下 菜 月 社会環境学科(附属城東高校)

第61回学生バドミントン秋季リーグ戦 3部リーグ 優勝

- バドミントン部

3rd Stage 2011 C2リーグ 優勝

- アクションサッカー愛好会

3rd Stage 2011 C2リーグ MVP

- 江 口 貴 映 知能機械工学科(佐賀県立白石高校)

第32回九州学生アイスホッケーリーグ戦 3部リーグ 優勝

- アイスホッケー部

第59回全日本吹奏楽コンクール 金賞

- 第35回全日本アンサンブルコンテスト 金賞
- 第56回九州吹奏楽コンクール 金賞
- 第37回九州アンサンブルコンテスト 金賞
- 福岡工業大学吹奏楽団

第8回JBAソロコンテスト九州大会 金賞

- 村 原 萌 子 社会環境学科(鹿児島県立出水中央高校)

第23回全日本ロボット相撲全国大会 ラジコン型第3位

- 第16回全日本高校生書道展書道展賞
- 第28回読売書法展入選
- 朝 倉 孝 文 知能機械工学科(附属城東高校)

全国学校・園庭ピオトープコンクール

- [日本生態系協会会長賞]
- 社会環境学部 ピオトープ研究会

RED BULL PAPER WINGS JAPAN 九州地区予選

- Longest Airtimeの部 優勝
- 大久保暢浩 知能機械工学科(私立祐誠高校)

学内外清掃活動

- 環境サークル オアシス同好会

短期大学部

成績優秀賞

- 飯 沼 眞 紀 情報メディア学科(福岡県立筑前高校)
- 山 下 祐 佳 情報メディア学科(長崎県立猶興館高校)
- 谷 村 賢 太 情報メディア学科(福岡県立博多工業高校)
- 山 本 ゆ き ビジネス情報学科(福岡県立柏陵高校)
- 徳 永 修 文 ビジネス情報学科(附属城東高校)

CG-ARTS協会賞

- 松 本 弘 貴 情報メディア学科(附属城東高校)

貢献賞

- 九 日 裕 智 情報メディア学科(福岡県立宗像高校)
- 小 田 一 貴 情報メディア学科(大分県立杵築高校)
- 渡 邊 公 敏 情報メディア学科(附属城東高校)

特別貢献賞

- 八 木 亮 暁 システムマネジメント学科(福岡県立博多青松高校)
- 上 園 詩 織 情報工学科(鹿児島県立加世田高校)

最多資格取得賞

- 飯 沼 眞 紀 情報メディア学科(福岡県立筑前高校)
- 占 部 瞳 ビジネス情報学科(福岡県立折尾高校)
- 山 本 ゆ き ビジネス情報学科(福岡県立柏陵高校)
- 吉 元 麻 里 子 ビジネス情報学科(鹿児島県立鹿屋高校)

皆勤賞

- 飯 沼 眞 紀 情報メディア学科(福岡県立筑前高校)
- 徳 永 修 文 ビジネス情報学科(附属城東高校)

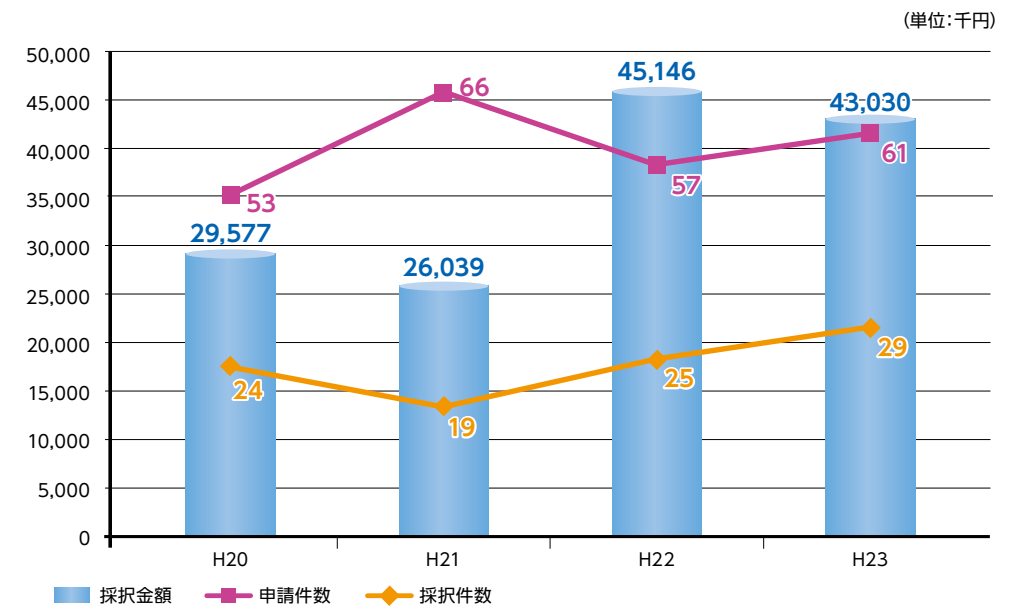
“情報”“環境”“モノづくり”の3領域で研究活動が活性化し、科学研究費の採択件数は増加しています。

外部研究資金の採択状況 - 科学研究費の採択件数が近年最多に

平成23年度の科学研究費の採択実績は29件、約4,300万円となり、採択件数が近年最多となりました。また、独立行政法人や企業からも合計29件、約3,500万円の研究費が交付され、研究活動が活性化しています。本学では研究活動の高度化及びこれに伴う教育活動の内容・方法の改善を目的として、エレクトロニクス研究所、情報科学研究所及び環境科学研究所、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター等を附置した総合研究機構を設置し、また、同機構内に産学連携推進室を設け、産学官共同研究を通して得た研究成果の社会還元を目指しています。

産学官連携研究の詳細はP29、その他の研究実績データはP51

科学研究費の採択状況推移



外部研究支援事業等の採択結果

(単位:千円)

研究費区分	研究活動のテーマ等(研究者)	研究費総額
科学研究費助成事業	・次世代三次元証明写真及び三次元防犯システムの構築に関する基礎研究(電子情報工学科・盧 存偉) ・ナノ多結晶ダイヤモンドと各種遷移金属との間に生じる熱化学反応機構の解明(知能機械工学科・仙波 卓弥) ・時空間に関する人間の直観的知識の表現と計算に関する研究(システムマネジメント学科・横田 将生) (全29事業)	43,030
共同研究	独立行政法人、企業等との共同研究費 (全14事業)	14,219
受託研究	独立行政法人、企業からの受託研究費 (全8事業)	16,116
奨学寄付金 その他研究助成金	独立行政法人、企業からの学術研究奨励費 (全7事業)	5,066
合 計	58事業	78,431

安定した財務状況を継続しながら、 低学費政策を堅持しています。

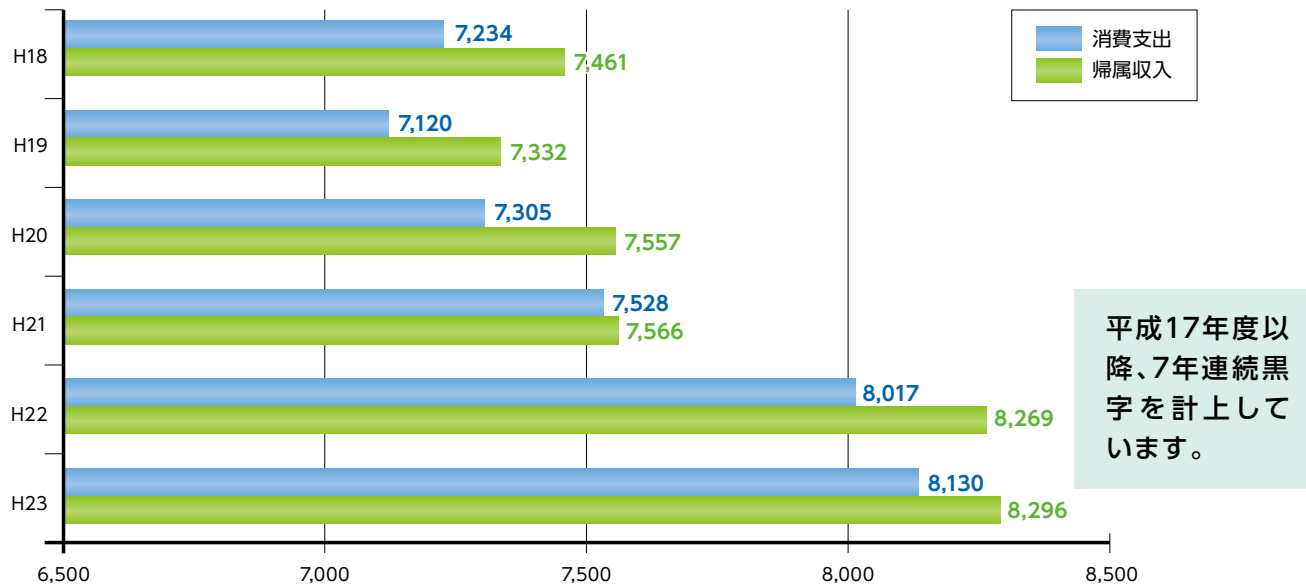
教育・経営改善の進展が高く評価され、 採択難易度の高い国の推進事業などに選定されました。

収支状況 – 7年連続黒字

平成23年度決算における収支状況は帰属収入約82億9,600万円、消費支出約81億3,000万円、帰属収支差額は約1億6,600万円となり、7年連続黒字となりました。費用対効果を高める経営管理システムを導入し、積極的な取組への投資と財政の安定を両立させています。

経営・財務の詳細はP39、各計算書類はP53

■過去6年間の収支推移 (単位:百万円)

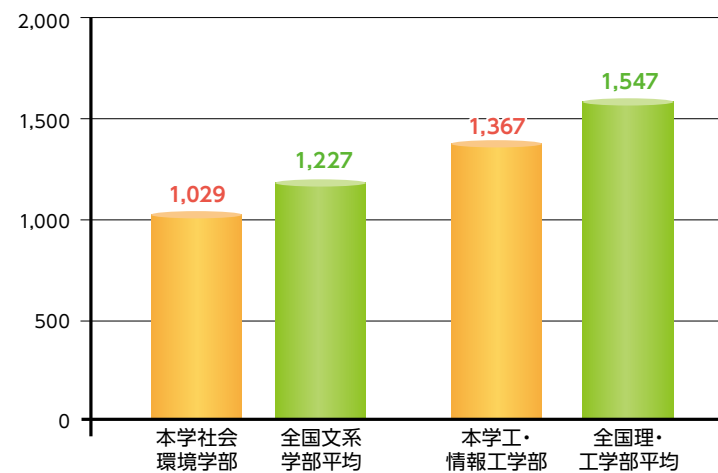


学費等徴収金状況 – 全国トップクラスの低学費を堅持

昨今の経済情勢の悪化により、学費負担が家計を圧迫する世帯が増加しています。本学では経済的問題で就学機会をあきらめないよう、安定した財政状況を土台に低学費政策を採用し、学生に還元しています。下記学生納付金調査結果の通り、本学の徴収学費は全国の理工系学部、文系学部の平均を下回る、全国トップクラスの低学費となっています。

学費等徴収金の詳細はP49

■学部系統別学生納付金調査結果 (単位:千円)



日本私立大学団体連合会「平成23年度 学生納付金等調査」より

社会環境学部は学際系学部で全国1位、工学部・情報工学部は理工系学部で全国6位の低学費です。

[2013年度版 大学ランキング]朝日新聞出版より

補助金の採択状況 – 未来経営戦略推進経費に全国の好事例として採択

私立大学にとって、取組内容が文部科学省や私学事業団などから評価され、補助事業に採択されることは教育や経営の取組状況の良否を把握する上で重要な物差しとなります。本学は高等教育機関として求められる新たな教育ニーズへの対応を進め、平成23年度は未来経営戦略推進経費に採択されるなど、約1億3千万円の補助増収効果があり、財政の安定に寄与しています。これらの補助金を原資とし、様々な取組を推進しています。

■主な補助事業への採択内容

補助金名	項目	取組内容
私立大学等 経常費補助金 特別補助 (私学事業団)	未来経営戦略 推進経費・大学	PDCAを基盤とする従来の経営管理システムを、IR活動によって高機能化させる取組が全国の先進事例として高評価で新規採択。 中四国・九州では唯一の採択校 となった。 詳細はP39
	未来経営戦略 推進経費・短大	中間審査において5段階評価のうちの最高位である「A」(計画が予定通り実行され、その成果も十分に現れている)と評価。「A」評価は対象30校中4校のみ となった。 詳細はP31
	情報公表の 促進	平成22年度より教育情報の公表状況に応じて、加減算される仕組みが新たに創設。本学は教育・研究活動報告書などを通じて積極的な公表を実施しており、それらを土台に迅速に対応し、補助要件全項目を充足した。
	国際化推進等	国際交流教育、留学生受入、障がい者受入等の教育基盤の整備が進捗し、経常費補助金の補助要件を新たに充足した。
私立学校施設整備 費補助金、私立大 学等研究設備整備 費補助金 (文部科学省)	エコキャンパス、 教育基盤設備	平成22年度と同件数の9件申請し、結果4件が採択。申請体制の見直しによって、大幅に申請件数が増加(平成20年度0件、平成21年度2件)。工作機械の整備やキャンパスのエコ化が進捗した。
留学生支援 制 (日本学生支援機構)	SS& SVプログラム	日本学生支援機構所管の留学生支援制度(ショートステイ・ショートビジット)に2件採択され、国際教育プログラムが進捗した。 詳細はP25

過年度採択された主な補助事業

- 「4つの力」育成によるキャリア形成支援
(平成22年度文部科学省・大学生の就業力育成支援事業) [詳細はP15](#)
- キャリアプランニング支援と就活学び直しプラスワンプロジェクト
(平成21年度文部科学省・学生支援推進プログラム) [詳細はP17](#)
- 国公私立大コンソーシアム・福岡
(平成20年度文部科学省・戦略的大学連携支援事業) [詳細はP21](#)

教育・経営改善の取組が好事例として 各方面からの評価が高まっています。

格付の状況 – 高評価の「A」を維持

株式会社格付投資情報センター(R&I)が実施する格付の更新審査を受審し、平成22年度に引き続き「A」評価を受けました。これは九州の企業ではふくおかFGや西日本シティ銀行、西鉄と同等で、地方の工業系大学としては非常に高い評価と言えます。

格付Aの主な企業

三菱UFJFG、日本ハム、帝人、久光製薬、住友化学、
日産自動車、伊藤忠商事、ふくおかFG、西日本シティ銀行、西日本鉄道

平成24年1月13日に発表された
R&I社のニュースリリース



大学情報誌等のランキング調査 – 九州私大でトップレベルの高評価

「大学探しランキングブック 2012」
進路指導教諭が評価する大学

就職に力を入れている大学 九州私大1位 (全国14位)	小規模だが評価できる私立大学 九州2位 (全国23位)
面倒見が良い大学 九州私大2位 (全国24位)	入学後、生徒を伸ばしてくれる私立大学 九州2位 (全国19位)
改革力が高い私立大学 九州1位 (全国15位)	入学後、生徒の満足度の高い私立大学 九州3位 (全国29位)

「大学ランキング 2013」
募集力(志願者の推移・2007年と2011年の比較)

募集力(志願者の推移・2007年と2011年の比較) 九州4位 (全国76位)
高校からの評価(総合評価) 九州私大5位 (全国64位)
事務職員力が優れている 九州1位 (全国18位)

「日経グローバル 2011年12月5日号」 大学の地域貢献度ランキング

総合 **九州私大1位** (全国41位)

主要メディアでの紹介 – 産経新聞に本学特集記事が掲載



「産経新聞」大学日々新たなり

平成23年10月5日から15日にかけて、産経新聞に「大学日々新たなり」のタイトルで連載記事が掲載されました。変革する大学をテーマに、本学の募集活動や就職支援、研究活動など過去14年にわたる本学の改革の取組を膨大な資料をもとに取材した結果が、紙面を飾りました。

産経新聞平成23年10月5日(右)、10月12日(左)掲載記事

大学研究誌等での紹介

本学は経営計画に沿って安定した学園運営を行っています。当該経営管理システムについて、日本私立学校振興・共済事業団(文部科学省委託研究)や日本私立大学協会の調査等で高い評価を得ました。それらの調査・研究の結果は、研究機関誌等で紹介されています。



『大学経営強化の事例集』 (2007.3)

文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。



『私大経営システムの分析』 (2007.11)

日本私立大学協会附置私学高等教育研究所の大学経営研究において、本学が教育改革を推進する経営システムを有しているとして高い評価を受け、紹介されました。



『学校法人』 (2008.2)

経営計画に基づく経営手法(PDCAによる経営管理)について、高く評価され紹介されました。(日本私立大学協会レポート)



『私学経営』 (2008.3)

私学経営研究会セミナー(東京・大阪の二地区で開催)における常務理事の経営管理に関する講演の抄録が掲載されました。



『私立高等学校のこれからを考える』 (2008.3)

附属城東高校の進学実績向上をはじめとした高校改革の実績について、全国12校の好事例に選ばれ紹介されました。



『学校法人』 (2008.7)

経費効率化を促し教育効果を向上させる予算制度が構築されているとして、高く評価され紹介されました。(日本私立学校振興・共済事業団レポート)



『大学外組織評価研究会』 (2009.3)

大学評価・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。



『カレッジマネジメント』 (2009.5)

予算管理と結びつけて経営計画・行動計画を実質化する取り組みについて、「お手本のような事例」として紹介されました。



『大学評価・学位研究』 (2010.3)

本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。



『財務・人事担当理事者会議』 第1回全体会議報告書(2010.3)

日本私立大学連盟の財務・人事担当理事者会議において、本学の学校経営システムに対して「全員大いに感銘を受ける」等の評価がなされました。



『カレッジマネジメント』 (2011.1)

次世代リーダーを育成するために実施している、アメリカ研修プログラム(FASTプログラム)が他大学にない独創性と密度の濃さがあると評価され、紹介されました。



『大学経営の評価システム』 (2012.3)

本学のPDCAを基盤とした経営システムが、評価が機能する体制の好事例として取り上げられました。

全学統一カリキュラムで段階的に就業力を育成するため、教育システムを整備しました。

平成22年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された、「4つの力育成によるキャリア形成支援」は全学統一カリキュラム（就業力育成プログラム）やキャリアポートフォリオシステムなど、教育環境整備を進めてきました。平成24年度よりカリキュラムを開始し、4年間の段階的な教育で就業力育成を図っていきます。

就業力の4要素「4つの力」育成のため、全学統一カリキュラムと学生サポートシステムを整備しました。

就業力育成プログラムの概要 平成22年度文部科学省・大学生の就業力育成支援事業採択

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
志向する力	キャリア形成							
共働する力	日本語表現	コミュニケーション基礎						
解決する力			技術者倫理					
実践する力				就業実習				
				特定専門科目				

「志向する力」は、将来の職業や生き方について自ら考え、目的とする方向を目指して行動する力です。この力の育成のために入学前には、自分の将来についての作文課題が課され、入学後の個人面談では、提出された作文の内容に基づいたアドバイスが行われます。また、1年次前期の「キャリア形成」*（必修2単位）では、基礎的なスタディ・スキルのほか、目標設定、計画立案、自己管理等の具体的な手法を学び、作文と面談を通じて考えてきた自分の大学生活や卒業後の職業生活への展望をさらに明確なものにできるように学んでいきます。*社会環境学科では「キャリア形成」

志向力
Intention Power

「共働する力」は、共に考えを伝え合い、協力しながら活動する力です。この力の育成のために、1年次前期の「日本語表現」*1（選択、2単位）では、大学生活で目的に応じて文章を書くために必要な日本語の基礎知識や書き言葉の表現法を身に付けます。また、2年次後期の「コミュニケーション基礎」*2（必修、2単位）では、グループワークを通じて、論理的思考や基本的な議論・プレゼンテーションの方法を実践的に習得していきます。*1社会環境学科では「日本語表現II」（1年次前期選択、2単位）、*2社会環境学科では「コミュニケーション基礎」（2年次前期、必修、2単位）

共働力
Working Power

「解決する力」は、問題を発見し、適切な方法でその解決を図る力です。この力の育成のために、2年次、3年次には、各学科における「技術者倫理」およびそれに相当する科目で、ケースメソッドとグループディスカッションの手法を用いた授業が展開され、問題発見から解決策の提案までのプロセスを学びます。またそれと同時に、技術者が社会に対して保持すべき倫理観を身に付け、専門分野における思考力・問題解決力・コミュニケーション力を高めていきます。

解決力
Solution Power

「実践する力」は、学んだ知識を応用し、実際の仕事の中で活用していく力です。この力の育成のために、「就業実習」（2年前期、3年前期）*では、インターンシップを実施し、就業体験（企業において実習・研修を経験すること）を通じて、実際の職業観を高めていきます。また、より高度な実践力を身に付けるために他学科で開講されている「特定専門科目」を受講できる制度が設けられています。*社会環境学科では「キャリア形成III」（3年後期）

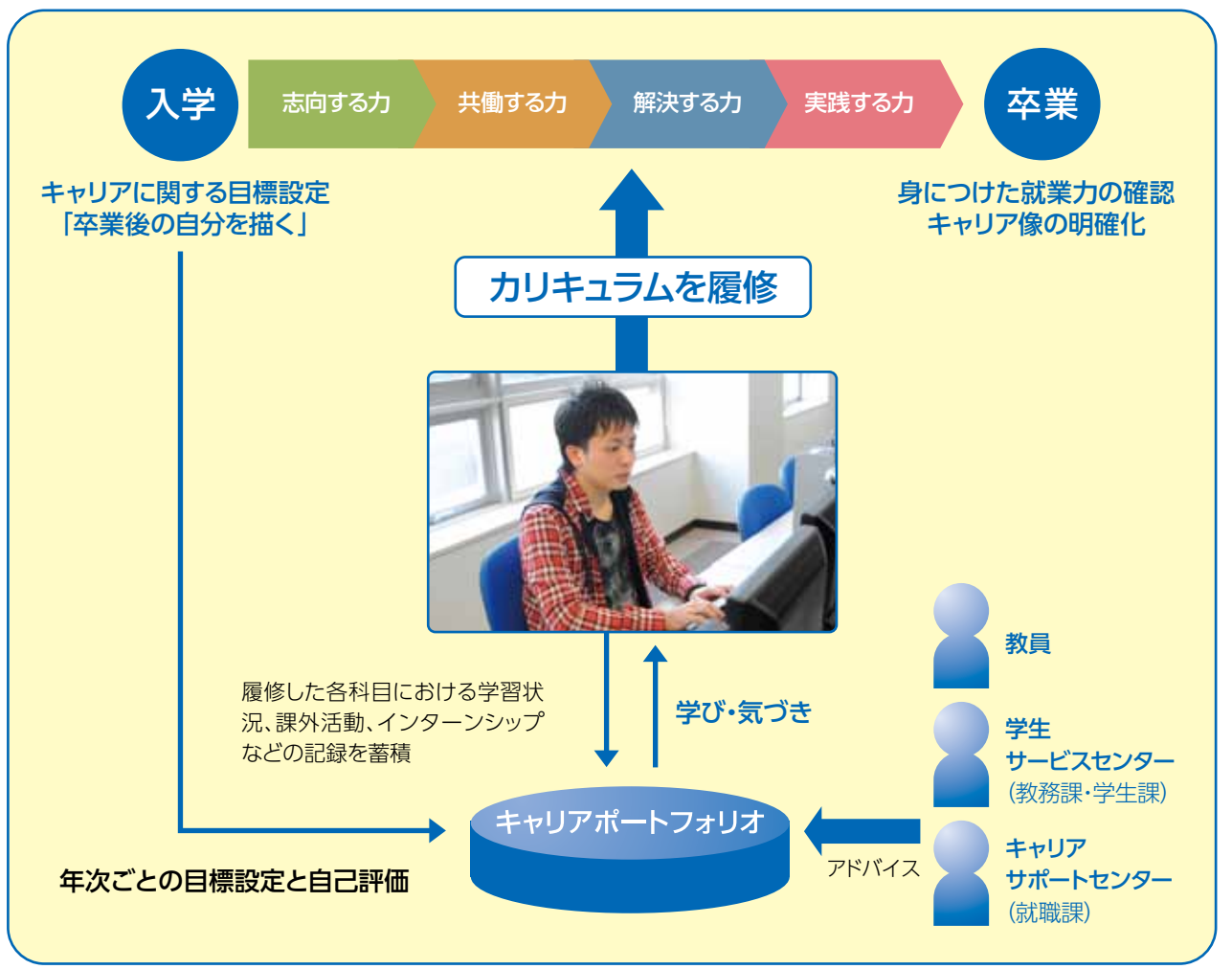
実践力
Practice Power

達成目標

<p>無業者率の低下</p> <p>本学を卒業する者のうち、就職先または進学先が未定のまま卒業した者の割合の低減。</p> <p>目標値 11.8%以下</p> <p>直近5年間の最低値以下</p>	<p>授業評価の向上</p> <p>就業力育成プログラムとして、指定した科目に関する学生の授業評価結果の向上。</p> <p>目標値 3.0以上</p> <p>科目ごとの総合評価（満点=4.0）</p>	<p>就職活動の満足度向上</p> <p>本学を卒業する学生が自分の就職活動とその結果に対する満足度の向上。</p> <p>目標値 平均3.0以上</p> <p>就職活動の満足度（満点=4.0）</p>	<p>就職先企業の満足度向上</p> <p>本学学生に対する評価の向上。</p> <p>目標値 平均3.0以上</p> <p>就職先企業の満足度（満点=4.0）</p>
---	---	---	--

キャリアポートフォリオの導入

平成23年度新入生からキャリアポートフォリオを導入しました。キャリアポートフォリオは、大学生活の中で体験していくことを自ら記録し振り返ることによって、自分の成長を感じ取ったり新たな課題を発見したりしながら、最終的には4年間の学習成果としてどのような「就業力」が身についたかを確認できるシステムです。



キャリアポートフォリオの画面

学生の声

- 「授業で何を学んだかを振り返ることができるし、自分がその授業で何が身についたかを確認できる」
- 「目標を定めてポートフォリオに入力することで、意識が固まり、目標達成につながりそう」
- 「目標に対する気持ちが薄れてきたときにポートフォリオを見ると改めて頑張ろうという気持ちになる」

就職内定率100%を目指し、初年次から卒業後までの段階的な就職支援体制を整備しています。

本学は入学後早期に就職への意識を高め、就職活動で確実に内定が獲得できるよう、様々な角度から段階的に支援しています。平成23年度は学生と求人先企業との斡旋機能の強化に努めました。今後も本学学生に対する優先的求人先の増加を目指し、九州、関東に加え、関西の求人先開拓に力を注いでいきます。

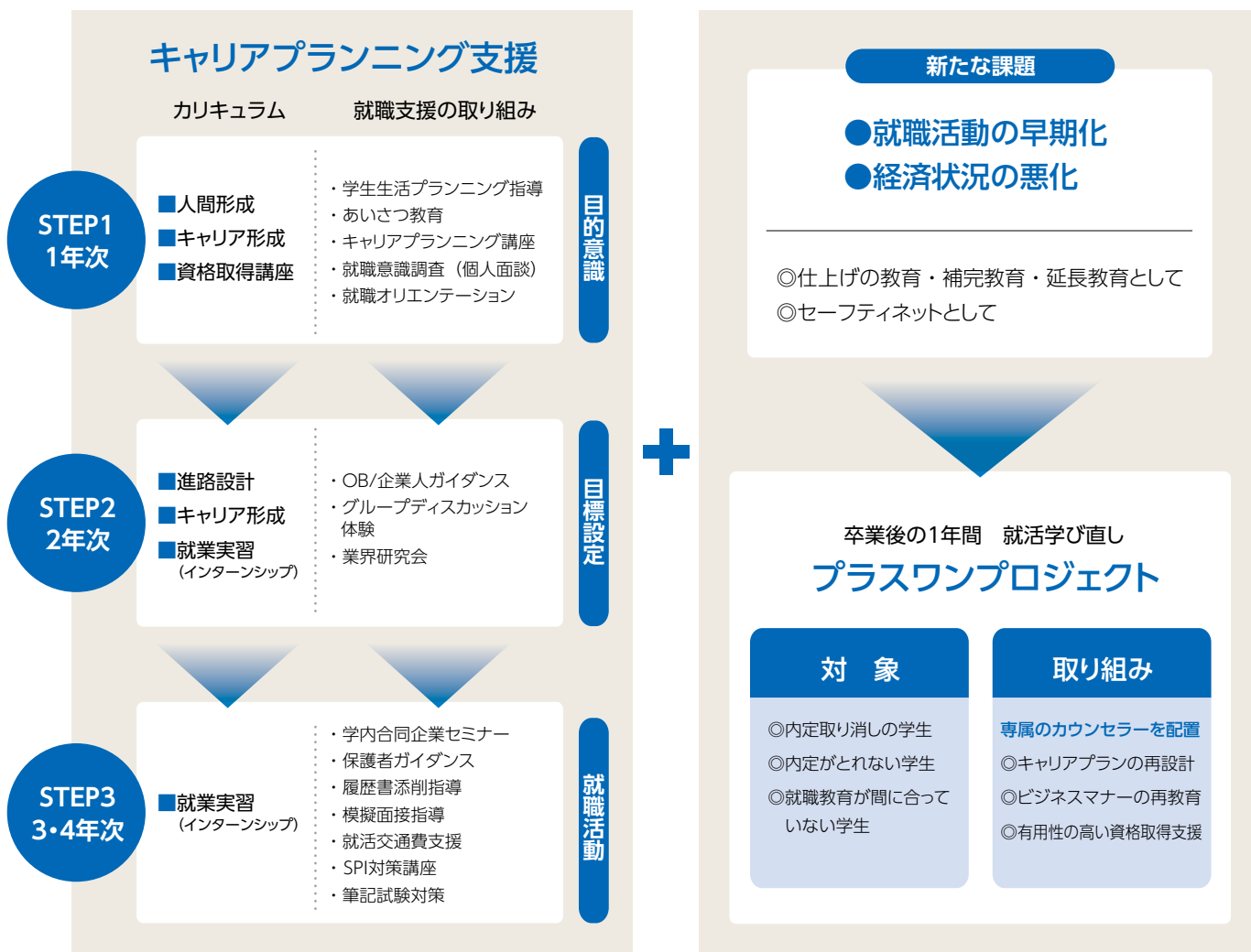
入学次から卒業後まで、「最後の一人まで」放置しない就職支援体制を整備しています。

本学の就職支援は、入学後早期に開始し、卒業後まで学生の状況に応じて段階的に支援する体制としており、**1年次は就職に備えた人間形成、2年次は就業意識の涵養、3・4年次は実践的な就職活動対策を重点とした3段階の支援プログラム**を実施しています。また、万一就職先未決定の場合は卒業後もキャリアプランの再設計を実施し、「最後の一人まで」放置しないきめ細かな支援体制を構築しています。

就職実績詳細はP47

就職支援の概要

平成21年度文部科学省・学生支援推進プログラム採択



主な就職支援の取組

相談・斡旋機能の強化



学科別の専属相談員の配置に加え、積極的な求人先企業開拓で斡旋機能を強化

本学では学科別に専属の相談員を配置し、求人先紹介、履歴書・エントリーシートの書き方、様々な悩み相談など、学生の状況に応じてきめ細かな対応を実施しています。また、積極的な求人企業開拓で学生と企業とのマッチング機能を強化しており、平成23年度は求人企業開拓を一層強化するため、地元金融機関と連携し、そのネットワークを活用した有力企業の求人開拓を進めました。

学内合同企業セミナー



延べ約600社が参加する九州最大級の合同企業セミナーを開催

合同企業セミナーは本学の就職支援の中核であり、毎年多くの学生が内定を獲得しています。平成23年度は5月、7月、8月、11月、2月に5回開催し、参加企業延べ約600社、参加学生数延べ約3,000名を動員しました。この規模は大学単独のセミナーとしては九州最大級の規模となります。特に7月、8月のセミナーを「強化セミナー」と位置付け、特別対策を講じるなど、内定獲得率を高める取組を実施しました。この結果、**就職希望学生の約54%が本セミナーで内定を獲得**しました。

保護者セミナー



学生・保護者・教職員三位一体となった就職活動の推進

昨今の厳しい新卒採用状況では、学生が早期に就職を意識し、準備を進めなければ意欲・能力があっても内定獲得が難しい状況にあります。本学では学生が早期に就職活動への意識を高めるためには、保護者のご協力が欠かせないと認識し、保護者セミナー等を通じて保護者の皆様に昨今の就職戦線の状況をお伝えしています。平成23年度は教育後援会開催時に九州・山口の各県で保護者セミナーを開催し、就職状況や保護者としてのあり方を説明させていただきました。今後も学生・保護者・教職員三位一体となった取組を推進していきます。

就職活動交通費補助



経済的問題で就職機会を逃さぬよう、関東・関西など遠方地域での就職活動に交通費補助

本学の学生は例年関東へ約40%、関西へ約10%、中部へ約10%など、70%以上の学生が九州以外の地域へ就職しています。遠方地区での就職活動は多額の費用がかかり、一般的には20万円から30万円の就職活動費用が必要と言われています。本学では経済的問題で意欲ある学生が就職機会を逃さぬよう、遠方での受験の際に交通費補助を実施しています。平成23年度は**関東周辺で35,000円、東海周辺で28,000円、関西周辺で23,000円を上限として補助を実施**し、その結果、117名の学生が本補助制度を利用して内定を獲得しました。

プラスワンプロジェクト



就職先未定で卒業した学生に対し、在学中同様のサポートを継続

平成21年度より、卒業時までに就職先が決まらなかった学生に対し、キャリアカウンセラーによるキャリアプラン再構築のアドバイスや、在学中同様に各種就職支援プログラムを受講できるようにするなど、「プラスワンプロジェクト」として支援に取り組んできました。平成23年度は、この「**プラスワンプロジェクト**」を通じ、**27名の学生が内定を獲得**しました。

教育システムの質保証と実質化に向けて 様々な取組を行いました。

社会経済の構造変化により、大学教育に求められるニーズは年々多様化しています。本学では様々な教育ニーズに対応し、社会に有為な人材を育成するために、FD推進機構を中心に各学部・学科で着実に教育改善を進めています。



主な教育改善の取組内容

	基礎学力養成	情報スキルの養成	英語力養成	創造力養成	教育の質保証
工学部 電子情報工学科 生命環境科学科 知能機械工学科 電気工学科	各学科で数学、物理などの高校レベルの復習を習熟度別クラス分けやチューターを活用するなどの方法で実施し、基礎学力の底上げを図りました。	修学に必要な基礎的情報スキルを養成するため、全学科で「コンピューターリテラシー」などの科目で情報スキルの底上げを図りました。	ネイティブの教員による授業や、英語プレゼンテーション力を強化する授業など、各学科で専門英語力を強化する取組を実施しています。	初年次からロボットや工学教育教材などを用いて、ものづくりへの興味を喚起した上で、2年次以降電気自動車等を活用したエンジニアリングデザイン教育を各学科で実施しています。	工学部FD研修会を通じて授業方法の好事例を教員間で共有するなど、授業改善の取組を継続して実施しています。また、「講義PDCA」を実施し、各講義の改善目標が達成できたか点検する仕組みを導入しています。
情報工学部 情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 システムマネジメント学科	「基礎数学」や「基礎物理学」等の科目で高校レベルから大学レベルへ基礎学力を向上させる取組を実施しています。また、一部学科では「数学・物理学何でも相談室」を開設し、学習相談を拡充しています。	情報系基礎科目を初年次に開講するなど、学生間のPCスキルの均一化や情報工学への興味向上を図っています。	各学科で「英語プレゼンテーション」や「技術英語」などの授業で、英語プレゼンテーション能力や、専門英語力を強化する取組を実施しています。	ロボット制御やWebアプリ開発、無線ネットワークなどを題材として、各学科で創成型実験科目を開講し、実験環境や講義内容の改善を図っています。	「教育改善計画書」を各学科・教員で作成するなど、PDCAサイクルに基づいた教育改善の体制を整備しました。また、顕著な教育業績をあげた教員を表彰し、受賞者が報告会を通じて発表するなど好事例の展開を図っています。
社会環境学部 社会環境学科	初年次に全員が少人数の「教養ゼミ」に所属し、独自テキストを用いて大学での学習のあり方を学ぶとともに、文章作成能力、論理思考力など、大学での学習に必要な基盤的能力の養成を図っています。	「情報検索入門」や「コンピューターリテラシー」などの科目で基礎的な情報スキルを養成し、また、丁寧な情報教育ができるよう、学科独自にミニマルチ演習室を設置し、少人数教育の環境を整備しています。	エクステンションセンターの資格取得支援講座にTOEIC講座を開設し、TOEIC IPを年5回実施するなど、積極的な受験を促進し、学部生全体の英語力底上げを図っています。	学生参加型ピオトープや商店街活性化プロジェクトなどのフィールドワークを通じて、企画力などの育成を図っています。	環境知識や就業力の向上度合いを客観評価し、教育改善につなげるため、eco検定や数学力検定、国語力検定を積極的に活用しています。
全学共通	e-Learningシステムを活用した全学統一の入学前教育体制を整備しました。また、フレッシュマンスクールを通じて、数学力、レポート力、ディベート力を底上げする取組を継続的に実施しています。	エクステンションセンターでITパスポートやMicrosoft Office Specialistなどの資格取得講座を全学部の学生を対象に開講しています。 詳細はP22	Net-Academy2を導入し、eラーニングによるインタラクティブな英語学習環境整備やプレイスメントテストを通じた習熟度別クラス分けなどを通じ、学生の学力に応じた英語教育を実施し、底上げを図っています。	モノづくりセンターでのプロジェクト活動などを通じ、課外で創造性を磨く教育環境を整備しています。 詳細はP24	学長をトップとしたFD推進機構が6つの部会を運営し、全学的なFDの推進を図り、講演会や研修会を開催しています。また、授業評価アンケートの分析や改善事例を「FD Annual Report」としてまとめ、全学への浸透を図っています。

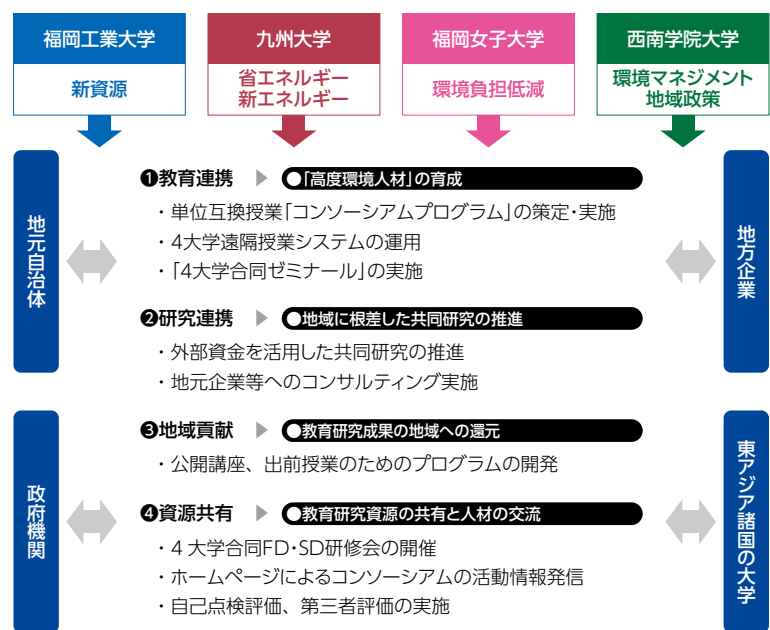
福岡地域の各大学の強みを活かした戦略的連携事業を推進し、教育・研究の高度化と地域貢献の拡充を図りました。

本学は教育研究の高度化のため、大学間連携を積極的に活用してきました。平成20年度よりスタートした「国公立大コンソーシアム・福岡」に加え、新たに「東部地域大学連携協定」を締結し、拡充を進めています。

福岡4大学連携事業(コンソーシアム・福岡)は教育研究水準の一層の高度化を目指し、自律的運営に向け第2フェーズをスタートしました。

福岡工業大学(代表校)、九州大学、福岡女子大学、西南学院大学の4大学によって平成20年に結成された「国公立大コンソーシアム・福岡」は平成22年度で文科省の補助採択期間を終え、平成23年度より自律的運営に向けたスタートを切りました。今後も地元企業、自治体などと協働しながら、「教育連携」「研究連携」「地域貢献」「資源共有」を推進し、大学院修士課程レベルでの「高度環境人材の育成」を目指していきます。

コンソーシアム・福岡の概要



■平成23年度の主な取組

教育連携

- ・単位互換授業「コンソーシアムプログラム」31科目を開講
- ・東京サテライトからの「特別授業」を実施
- ・大学院生対象就職支援セミナー「修士の就活」開催
- ・学外合宿研修「4大学合同ゼミナール」の実施

研究連携

- ・「スマートコミュニティ構想普及支援事業」に採択され、地元石油業界とFSを実施

地域貢献

- ・4大学リレー形式による公開講座を実施
- ・「エナコロジーディベートコンテスト2011」を主催
- ・地元高校生を対象とした出前授業を実施

資源共有

- ・4大学総長・学長による「戦略会議」開催
- ・地元有識者による第三者評価「アドバイザーボードミーティング」開催
- ・4大学教職員によるFD-SD研修会
- ・「共同大学院設置構想検討委員会」がスタート

福岡市東部地域の発展に貢献するため、東部福岡3大学で協定を締結しました。



左から山本九州産業大学学長、梶山福岡女子大学学長、本学下村学長

平成23年11月に福岡市東部に位置する、九州産業大学、福岡女子大学と本学が「東部地域大学連携協定」を締結しました。学部レベルでの教育・研究活動全般における交流及び連携を推進し、相互の教育・研究の質の向上と地域社会の発展に寄与することを目的としています。今後は連携講座や共同研究、市民公開講座、学生の地域イベントへの参加などを実施していく予定です。

就職力、実務能力を高める有用な資格取得を正課・課外の様々な取組を通じてバックアップしました。

本学では各学科の正課カリキュラムと資格試験との連携を強め、また、課外においてもエクステンションセンターで様々な資格取得講座を開講するなど、充実した資格取得支援体制を整備しています。平成23年度より難関資格合格者への表彰制度を創設するなど、資格取得を一層奨励しました。

正課カリキュラムと資格試験との連携強化やエクステンションセンターの課外講座を通じ、合格率向上を図っています。



第1級陸上無線技術士試験に合格した、左から石井隆成さん、小西功晃さん、吉田大輝さん

平成23年度主要資格の取得実績

第1級陸上無線技術士	3名
電気通信主任技術者	3名
バイオ技術認定	8名
公害防止管理者	4名
技能検定機械系2級	28名
応用情報技術者	2名
Webクリエイター上級	22名
第1級陸上特殊無線技士	8名
eco検定試験	42名

その他の資格取得実績の詳細はP50

■各学部・学科での取得支援

資格取得に必要な指定科目の単位を取得することにより、卒業と同様、または実務経験を経て取得できる資格、および学科試験の一部が免除される資格

教員免許

- 高等学校教諭一種免許状
 - 【工業】工学部(全学科)
 - 【理科】工学部(生命環境科学科)
 - 【数学】情報工学部(全学科)
 - 【情報】情報工学部(全学科)
 - 【公民】社会環境学部
- 中学校教諭一種免許状
 - 【数学】情報工学部(全学科)
 - 【理科】工学部(生命環境科学科)
 - 【社会】社会環境学部

修習技術者(→技術士補)

- 知能機械工学科(知能機械創成コース)
- 情報通信工学科(情報通信先端工学コース)
- 情報システム工学科(情報システム技術コース)



食品衛生管理者/食品衛生監視員

- 生命環境科学科

無線従事者

- 情報通信工学科

毒物劇物取扱責任者

- 生命環境科学科

電気主任技術者(第1種、第2種、第3種)

- 電気工学科

電気通信主任技術者

- (伝送交換主任技術者・路線主任技術者)
- 情報通信工学科

工事担任者

- [AI(アナログ)および、DD(デジタル)]
- 第1種・第2種・第3種、AI・DD総合種
- 情報通信工学科

■エクステンションセンターでの取得支援

特徴

- ・学生支援の一環で無料または低額で受講できる講座を増加
- ・資格試験のプロである専門学校講師を招いての本格的な講座
- ・市価より1/5~1/2程度に抑えられた受講料

平成23年度講座案内(一部抜粋)

- MOS(Microsoft Office Specialist)
- ITパスポート
- 基本情報技術者
- TOEIC(入門講座・基礎講座)
- TOEIC 450点突破講座
- TOEIC入門・基礎講座セットコース
- 日商簿記3級(6月・11月試験対策)
- 日商簿記2級
- 色彩検定2級(初学者向け・3級合格者向け)
 - カラーコーディネーター—
- 秘書検定(3級・2級)
- 秘書検定3・2級セットコース
- 【直前対策講座】
 - 基本情報技術者(直前対策コース)
 - ITパスポート(直前対策コース)
 - 日商簿記3級 直前対策講座
 - 日商簿記2級 直前対策講座
- 【就職支援講座】
 - 公務員講座(教養科目)
 - 公務員夏期集中講座
- 【通学講座】
 - 公務員講座(専門科目)
 - 宅建主任者講座
 - 日商簿記1級講座
 - 秘書準1級講座
 - 国内旅行管理者

各学科で支援講座を行っている資格一覧

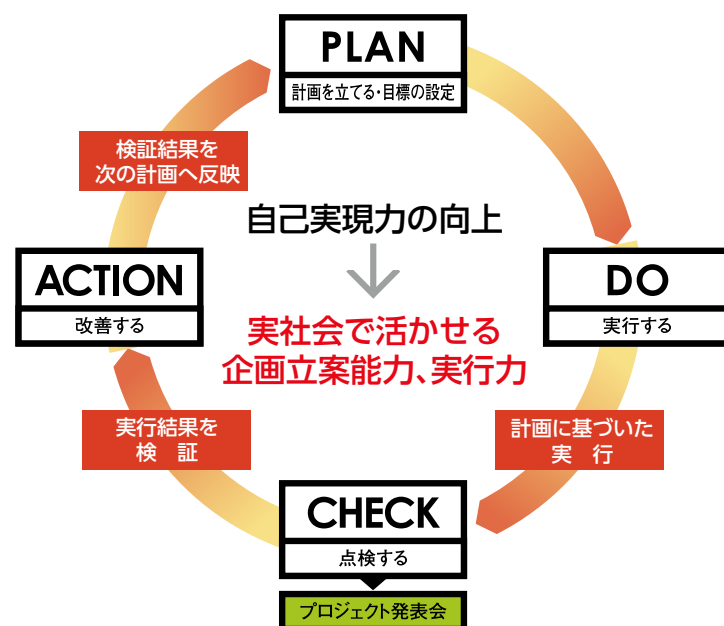
ITパスポート 基本情報技術者 MOS (Microsoft Office Specialist)	電子情報工学科 情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 システムマネジメント学科	公害防止管理者(水質) 危険物取扱者/バイオ技術認定 環境計量士(濃度/温度/湿度)/環境測定分析士 CAD利用技術者/機械設計技術者/ 機械保全技能士検定	生命環境科学科 生命環境科学科
第1級陸上無線技術士 第1級陸上特殊無線技士 第3級海上特殊無線技士	電子情報工学科 情報通信工学科 情報通信工学科	電気工事士/ 電気主任技術者	知能機械工学科 電気工学科
Webクリエイター能力認定試験 LPIC Linux Professional Institute Certification(Linux技術者認定試験) CCNN Cisco Certified Network Associate	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 システムマネジメント学科	日商簿記検定/TOEIC 電気通信主任技術者 電気通信の工事担任者 環境社会検定試験(eco検定)	社会環境科学科 情報通信工学科 社会環境科学科

“情報”“環境”“モノづくり”3領域のフィールドワークで、創造力、企画立案能力を育成しています。

本学は座学だけでなく、モノづくりセンターなどでの学生の主体的な課外活動の体験を通じて、創造力や企画立案能力を涵養することを重視し、技術支援や財政支援など、課外教育の環境を整備してきました。このような活動は就業力育成にも効果を発揮しており、今後も引き続き支援していきます。

学生主体の課外活動を通じて、PDCAサイクルを学ぶ環境を整備しています。

社会人として活躍していく上で、「PLAN」「DO」「CHECK」「ACTION」のPDCAサイクルに基づいて仕事を進めていくことは、いかなる職種、業界においても重要なこととなります。本学では課外活動を通じて、このPDCAサイクルに基づいた企画・実行能力を体得してもらうため、課外活動を重要な教育の場として環境整備しています。



社会環境学部環境活動



環境ISO学生組織「エコFIT」

社会環境学部は環境マネジメント・システム「ISO14001」の認証を取得しており、このマネジメント・システムの考え方を基本に、学内外で様々な環境保全活動を実施しています。この活動をベースに、経済産業省などが主催する「社会人基礎力グランプリ2012」九州・沖縄地区予選大会で「ISO14001を活用した実践的な環境人材の育成」をテーマに発表し、高評価を受け、準優秀賞を受賞しました。



ビオトープ研究会

キャンパス内の里山に生態系を復元する環境を整備したり、地域住民やNPOなどとのパートナーシップを通じて、生物多様性について考える勉強会や観察会を実施しています。この取組は日本生態系協会主催の「全国学校・園庭ビオトープコンクール2011」で高評価を受け、「日本生態系協会会長賞」を受賞しました。

モノづくりセンターのプロジェクト活動

モノづくりセンターは学生の創造力育成拠点であり、学生自ら目標に向かってプロジェクトを運営しています。このような学生のプロジェクト活動を支援するため、専門職員を配置するなど、技術面、財政面から活動を支援しています。平成23年度は、11のプロジェクトに約200名の学生が参加し、NHK大学ロボコン2011全国大会やソーラーカーレース鈴鹿2011に出場するなどの実績を残しました。

平成23年度主な大会出場実績

- NHK大学ロボコン2011
- RoboCupジャパンオープン2011
- ソーラーカーレース鈴鹿2011
- 第23回全日本ロボット相撲大会九州地区大会
- 柳川ソーラーボート大会2011
- 姫路ロボチャレンジ第13回大会 など



電気自動車

クルマを自分たちで電気自動車に改造し、毎年「四国EVラリーフェスティバル」で性能を競い合います。



ロボット相撲

相撲同様に自作ロボットを土俵上で対戦させる競技です。目標は「全日本ロボット相撲全国大会」優勝です。



飛行ロボコン

「学生室内飛行ロボットコンテスト」出場を目指して、自立ロボット飛行機を設計・製作しています。CCDカメラを搭載し、マーカーを検出して画像処理を行うなどアイデアを駆使しています。



太陽光発電・ソーラーボート

太陽電池が将来のエネルギー供給の重要な位置を占めることに着目し、太陽エネルギーで走るソーラーEV車・ソーラーボートの製作を行っています。



真空管アンプ

真空管・電気回路（アンプ、ラジオ、エフェクタ等）の製作を通して、色々な回路の知識を身につけていきます。携帯型ギターアンプ、真空管式カーステレオ等の製作を行っています。



手作りアクセサリ

銀や七宝焼き、ビーズなどを使って、世界に1つだけのオリジナルアクセサリを製作するプロジェクト。作品をオープンキャンパスで展示・販売したり、地域のイベントに参加したりしています。



ロボコン

TVでもおなじみ“ロボコン”（NHK大学ロボコン）で全国制覇するのが夢です。平成12年に初出場し6位入賞を果たし、以降コンスタントに出場しています。



ソーラーカー

すべて自作のソーラーカーで「Dream Cup ソーラーカーレース鈴鹿」優勝を目指しています。



二足歩行ロボット

オリジナルの二足歩行ロボットを製作し、ROBO-ONE（二足歩行ロボットによる格闘技大会）に出場することを目標としています。



ロボカップ

独自のプログラミングを施したロボットによるサッカー競技。本学はその四足リーグ部門で国内大会4連覇、7年連続世界大会出場の実績を誇っています。



ビオトープ・植物環境

おとめが池の水質調査や浄化を行い、虫を招き飛び交わせようと活動中。学外活動も盛んで、地域の子どもたちと和白糖の観察会などを行っています。

国際交流ネットワークを通じて、グローバル化に対応する国際教育を大幅に拡大しました。

本学は6カ国14大学と交流協定を結び、国際交流ネットワークの整備と教育プログラムの充実を進めており、カリフォルニア州立大学イーストベイ校とのプログラムが学生支援機構の平成23年度SS&SVプログラムに採択されるなど、高い評価を受けています。平成24年度はタイのキングモンクット工科大学、中国の南京理工大学とのプログラムも補助採択され、計3件のプログラムを運営し、国際教育の一層の充実を図っていきます。

グローバル人材育成のため、国際交流ネットワークを強化・拡大しています。

本学は6カ国14大学と協定を締結し、教育・研究の国際化、高度化を進めています。海外拠点としてカリフォルニア事務所、留学生に対する日本語教育拠点を中国とタイに設立するなど、ネットワークを強化・拡大しています。

協定内容詳細はP51

国際交流ネットワーク



JUNBA



JUNBAサミット2012の様

JUNBAとは「サンフランシスコ・バイエリア大学間連携ネットワーク」の略称で、米国内に拠点を有する日本の大学間の連携ネットワークです。本学は本学の国際化、国際的な人材育成に資するネットワークを拡大・深化させるために平成22年に加盟しました。毎年開催されている、JUNBAサミットに学長及び常務理事が参加するなど、本学は中心メンバーとして活動しています。

- JUNBAの主な加盟大学・機関
大阪大学、桜美林大学、鹿児島大学、九州大学、東京工業大学、東京理科大学、東北大学、福岡工業大学、横浜市立大学、日本学術振興会

日米協同教育プログラムが学生支援機構に補助採択されるなど、充実した国際教育プログラムが高い評価を受けました。



学長主催のトップクラス学生向け日米共同教育プログラム

平成23年度学生支援機構留学生交流支援制度採択

協定校であるカリフォルニア州立大学イーストベイ校の学生とのディベートや米国で活躍中の外交官や企業家などによる講義を通じて、幅広い職業観・人生観を培うために「学長主催のトップクラス学生向け日米共同教育プログラム」を実施しました。本取組は「学長インターンシップ型」として、学長自ら企画から学生引率まで企画責任を担い、グローバル人材育成を図るものです。各学科から推薦された12名の学生が参加し、講義やアクティビティを通じて、学生の意識が大きく変化したことが窺えました。



5カ国5大学との短期プログラム

毎年主として夏休み期間中に本学から各国の協定校に学生を派遣し、現地の文化を実体験し、視野を広げるプログラムを実施しています。平成23年度はカリフォルニア州立大学イーストベイ校、韓国・慶星大、中国・大連理工大学に計24名の学生を派遣しました。また、海外から本学に学生を受け入れるプログラムも併せて実施しており、タイ・キングモンクット工科大学から22名、オーストラリア・パララット大から10名の学生を受け入れ、ホームステイや企業訪問を通じ、日本文化への理解や日本語能力の向上を図りました。



オレゴン州立大学との研究セミナー

本学大学院工学研究科と米国・オレゴン州立大学工学部との研究セミナーが平成23年11月に開催され、修士課程の学生3名、博士後期課程の学生1名、教職員4名が参加し、学生達が日頃の研究内容を英語で発表しました。オレゴン州立大学は創設140年の歴史を誇る伝統ある総合大学であり、特に工学分野の研究はこれまで大きな成果を残しています。今後も本学大学院はオレゴン州立大学との交流を深める予定としており、平成24年度から本学とオレゴン州立大学をネットワークで結び、ロボットの遠隔研究を開始する予定としています。



北華大学、キングモンクット工科大学とのツィニングプログラム、南京理工大学とのダブルディグリープログラム

本学は平成20年に北華大学、平成22年にキングモンクット工科大学に「日本語センター」を開設し、本学への留学を希望する学生に対し、現地で日本語教育を行った後、受け入れる制度を実施しています。平成23年度は北華大学から6名、キングモンクット工科大学から5名の留学生を受け入れました。また、南京理工大学とは平成20年度より大学院の合同プログラムを実施しています。南京理工大学大学院から本学大学院に留学し、本学で修士号を取得した場合、南京理工大学でも修士号が授与される仕組みのプログラムです。平成23年度は本プログラムを通じ2名の留学生を受け入れました。



国際交流サポーター制度

留学生との交流を通して日本人学生の視野を広げるため、また、外国人留学生の日本語力向上や生活支援のために、平成21年に国際交流サポーター制度を設立しました。その後学生主体の交流が活性化し、国際交流サークルが設立されるまでに至り、キャンパスの国際化、交流の深化に貢献しています。

学生一人ひとりに対応したきめ細かい支援体制で、学生生活をサポートしています。

“For All The Students”を経営理念に掲げる本学ではクラス担任制度や新入生全員面談など、教職員が学生一人ひとりを把握した上で、状況に応じた様々な支援をしています。

日常的な学習相談から専門家の知見を活かした生活相談まで、学生の状況に応じた支援体制を充実させました。



日常的修学支援

クラス担任制度やオフィスアワーを導入し、学習上の疑問点や悩みなどにきめ細かく対応できる体制を整備しています。また、学習理解が促進されるよう、各学科でSA(スチューデントアシスタント)やチューター、TA(ティーチング アシスタント)を積極的に活用し、講義の疑問点があればすぐに解消されるよう、相談しやすい環境を整備しています。



日常的學生支援

円滑な学生生活が送れるよう、学生サービスセンターを中心に様々な取組を実施しています。新入生全員面談やオリエンテーションを通じ、高校からの生活変化に円滑に移行できるよう配慮し、また、総学生数に占める割合が低い女子学生や留学生の友人関係の構築を支援するなど、積極的に学生生活支援をしています。



専門的學生支援

実績豊富な臨床心理士2名、キャリアカウンセラー2名を配置するなど、日常生活で困難に陥った学生に対し、専門家による相談体制を整備しています。毎年人間関係、家庭、就職など、多様な悩みに対応しています。

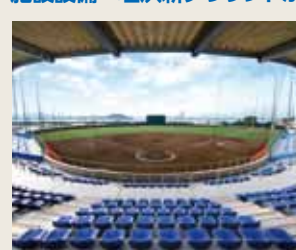
クラブ・サークル活動は有用な人間性教育の場と捉え、多面的な支援策を通じ活動の活性化を図りました。

クラブ・サークル活動を有用な人間性教育の場と考え、積極的な支援策を実施しています。平成23年度は新規サークルの設立支援を強化するなどクラブ・サークル活性化に向けた取組を強化しました。

優秀者の表彰や積極的な財政支援策により、クラブ・サークル活動を活性化させています。



施設設備—塩浜新グラウンドが完成し、活動スペースが拡大



野球場、多目的グラウンドからなる塩浜新グラウンドが完成し、クラブ・サークル活動のスペースが大幅に増加しました。活動スペースの充実がクラブ・サークル活動の活性化に不可欠なものとして、整備・拡充を進めています。

優秀者表彰



競技会等で優秀な成績を収めた場合や、ボランティアなどの善行に対して学生を表彰し、敬意を表すると共に他の追随を促すために学生表彰(団体・個人)の制度を創設しました。

人間性教育—地域貢献活動を通じた人間力の向上



クラブ・サークル部員を中心に毎年ラブアースクリーン福岡での塩浜海岸清掃や地域の夏祭り、もちつき大会に参加するなど、地域貢献活動を通じて社会性、人間性を高める機会を様々な形で提供しています。

財政支援—クラブ・サークル活動支援補助拡充



昨今の厳しい経済情勢により経済的問題を抱え、クラブ・サークル活動を断念せざるを得ない学生が増加する傾向にあります。平成22年度より新規サークル設立時や学外施設利用時の補助制度を創設し、クラブ・サークル活動の活性化を図っています。

自動車・宇宙・環境技術などの諸分野において、北部九州の産業発展に寄与する新技術の研究が進展しています。

研究マネジメント組織である総合研究機構を中心に、本学の精密機械加工技術、通信技術、ロボット技術、環境技術などを活用した様々な研究開発を推進しました。本学では産学官連携を推進し、研究成果の社会還元を通じ、北部九州の産業発展に貢献していきます。

東アジアを代表する金型産業拠点形成に貢献するため、九州工業大学と連携協定を締結しました。

最先端の金型製造技術の創成、人材育成等による地域企業への技術普及を図るため、九州工業大学と連携協定を締結しました。本学は次世代マイクロ/ナノ金型開発センターを創設し、ナノレベルの精密加工技術の研究を推進しており、また、九州工業大学はコンピューターを用いた金型設計技術の研究を推進してきました。両大学の強みを合わせ、地元の自動車関連企業などへ技術移転することで、北部九州が東アジアを代表する金型産業の拠点となることを狙っています。福岡県は「北部九州自動車150万台先進生産拠点プロジェクト」を実施しており、技術向上と人材育成の面から、同プロジェクトを後押しします。



協定調印後握手する、小川福岡県知事(中央)、松永九州工業大学学長(左)、下村本学学長(右)

産学官連携研究を通じ、次世代技術の開発を促進しています。



ふくおかISTの研究開発支援事業に4事業採択

財団法人福岡県産業・科学技術振興財団(ふくおかIST)の平成23年度研究開発支援事業より「高効率オゾン酸化水質浄化システムの開発」「静電誘引型インクジェット方式による樹脂成型部品の意匠性コーティング技術の開発」「高アスペクト比を持つ超硬合金製絞り金型に対する研削加工技術の開発」「高度位置決め技術によるレアアースフリーモーターEV駆動装置の開発」の4事業が採択され、新技術の開発を目指し、研究活動を推進しました。



全国初の水力発電システムの実証実験実施

株式会社技術開発コンサルタントが農林水産省の「緑と水の環境技術革命プロジェクト事業」に採択され、「フラッタ方式マイクロ水力発電システム」の実証実験を実施しました。この発電システムは本学知能機械工学科・阿比留教授が考案したもので、実証実験は全国初となります。一般の水力発電と異なり、大規模ダムなどの施設が不要な発電方式で、全37,000キロに上る農業用水路の有効活用が期待されます。



リハビリテーション用車いすロボットの開発

福岡県ロボット産業振興会議の平成23年度ロボット技術実用化事業に採択された「リハビリ及びロボットのためのBMW計測実用パッケージの開発」プロジェクトに株式会社ロジカルプロダクト、九州大学、九州先端科学技術研究所とともに参画しました。本学は車いすロボット技術を用い、車いすロボット搭乗時の身体に与える影響の研究を進めました。

高速通信技術確立のため、平成24年9月の打ち上げを目指し、小型衛星の開発を進めています。



開発が進む小型衛星「FIT Sat-1」(愛称:にわか衛星)



開発を進める田中教授と学生

国際宇宙ステーションから小型衛星を放出し、地球周回軌道に投入する宇宙航空研究開発機構(JAXA)の実験に本学が開発する「FITSAT-1(愛称:にわか衛星)」が選ばれました。平成24年9月頃の打ち上げを目指し、本学情報工学科・田中教授が率いる学生ら約30名の開発チームが開発を進めています。

研究シーズと研究成果の公開を通じ、地域企業の競争力強化に貢献しています。



FITテクノクラブ

FITテクノクラブは本学の研究成果を公開し、地域企業が活用できるようにする目的で設立した会員制のクラブです。平成24年3月現在会員企業数は約140社に達し、大学・企業双方の技術交流や会員企業同士の異業種交流、コーディネーターによる技術相談などを実施し、地域企業の発展に貢献しています。



産学官交流会

本学の研究成果を通じて地域産業発展に貢献できるように産学官交流会を毎年実施しています。平成23年度は産学官各界から計137名の参加者を集め、研究成果の発表や活発な情報交換が行われました。



金型技術者人材育成事業

本学は次世代マイクロ/ナノ金型開発センターを設立し、精密金型加工において世界的にも独創的な研究を進めてきました。その金型加工技術を核として、先端加工技術を地域企業が習得できるように北部九州自動車産業活性化人材養成等事業として講習会を開催しました。

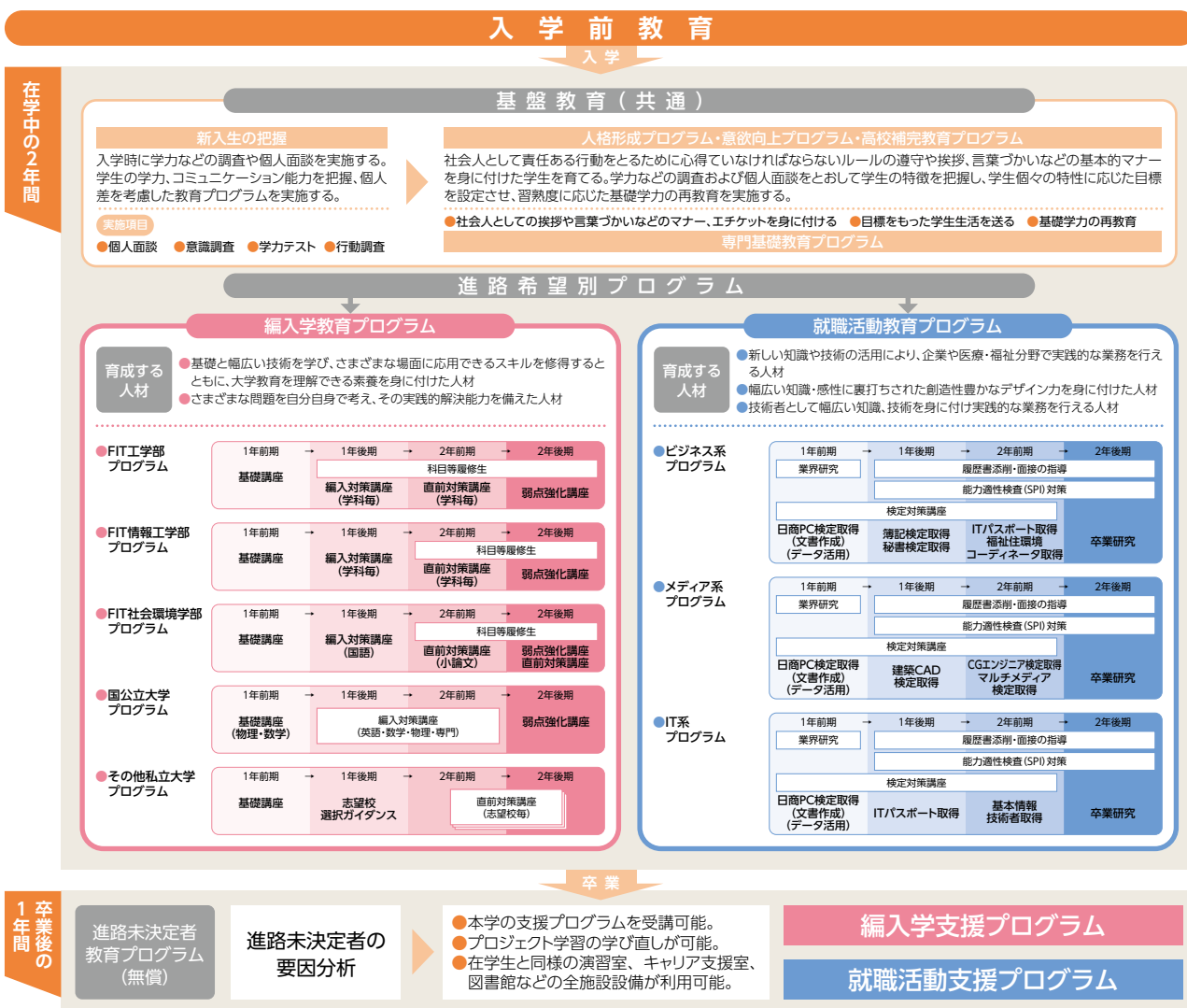
進路保証プログラムを中心とした、教育改革の取組が高い外部評価と進路実績の良好さとして結実しました。

開始2年目を迎えた進路保証プログラムを中心とした短大部の取組は、未来経営戦略推進経費の中間評価における高評価や全国的に短大生の進路状況が厳しい中での高い進路決定率など、改革・改善の成果が現れています。平成24年度は国公立大学への編入学希望の学生への対応のため、「特進」コースを設けるなど、一層の強化に努めていきます。

学生一人ひとりの希望に合う進路実現に向けて、入学前から卒業後まで一貫した教育プログラムを整備しています。

平成22年度より本格始動した進路保証プログラムが2年目を迎え、学長のリーダーシップの下、プログラムを推進しました。本プログラムは、**学生一人ひとりの教育・学生生活に深く関わり、確実に「学力」「意欲」「社会性」を向上させ、「希望(目指す進路)をかなえる(実現する)」ことを目的に、2年間の進路別学習プログラムを実施するものです。**2年間で目標到達が実現しなかった場合は、無償で再教育を行い、進路支援を保証する取組です。

進路保証プログラムの概要



進路保証プログラムの中間評価

平成20年度の補助採択を受け、短期大学部ではこれまで進路保証プログラムを柱とする教育改善、経営改善に取り組んできました。日本私立学校・振興・共済事業団の書面審査、ヒアリングを通じた**中間審査の結果、5段階評価の最高位である「A」(計画が予定通り実行され、その成果も十分に現れている)**と評価されました。

■平成20年度から23年度までの重点取組項目

重点項目	取組内容
1.プロジェクト学習実効化	進路直結型システムとして、学生の進路決定の飛躍的向上を図りました。(例:ビジネスプランニング、Webデザイン他8コースのプロジェクト学習の整備)
2.社会人基礎力育成	将来の進路を見据えた個人目標の設定や基礎学力の向上を通して、社会人としての基礎的なマナーやルール順守の意識を育みました。(例:人格形成プログラム、高校補完教育プログラムの整備)
3.資格取得支援強化	進路保証プログラムにおいて、目指す職種に対応した就業能力向上に資する資格取得支援を展開しました。(例:簿記検定、基本情報技術者、ITパスポート、日商PC検定等の対策講座開講)
4.編入学推進	高い就学意欲に応えるキャリアデザイン向上のための編入学支援システムを構築しました。(例:編入学支援プログラムの整備)

■対象30大学の評価状況

評価符号	対象学校数
A	4
B	12
C	6
D	8
E	0
計	30

全国でわずか4校の最高位評価を受けました。

進路実績

■4年制大学への編入学実績の推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
編入希望者	46	48	52	58
編入合格者数	46	48	51	54
編入合格率	100%	100%	98.1%	93.1%

平成23年度4年制大学への編入学実績は福岡工業大学へ35名、九州工業大学へ2名、その他私立大学へ17名の54名となりました。編入大学が未決定の学生はこれから1年間、国公立大編入学プログラムを受講し、再チャレンジする予定としています。

編入学実績詳細はP48

■就職実績の推移

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
就職希望者	42	43	39	71
就職者数	41	39	37	69
内定率	97.6%	90.7%	94.9%	97.2%

平成23年度就職実績は就職希望者71名に対し、就職者69名(内定率97.2%)となり、厳しい雇用情勢の中近年最高の実績となりました。一部上場等の優良企業への就職も増加傾向にあり、福岡銀行、西日本シティ銀行、富士通への内定者を輩出しました。

就職実績詳細はP48

社会人としての基盤的能力と希望進路に適う実践的スキルの双方を重視し、2ヶ年の短期間で高レベルな人材育成を行っています。

実務能力養成のための「プロジェクト学習」や教養力や人間性を高めるための様々な学習支援策を実施し、高い実務能力と豊かな教養を兼ね備えた人材を輩出できるよう、教育改善に継続して取り組んできました。今後も内容の評価、検証を絶えず実施し、内容の充実を図っていきます。

卒業後の進路に直結したカリキュラム構成で、実務能力の高い人材育成を図っています。

プロジェクト学習は将来の目標に合わせテーマに沿って科目を選択する制度で、**どの学科に所属していても他学科の科目も含め、選択プロジェクトに沿って履修することができます。**本学では教育内容と実社会で求められる知識・技術との間に乖離が生じないように、社会動向を見据えたカリキュラム構成にしています。

プロジェクト学習の概要

プロジェクト学習名	目指す就職先・職種	対応する編入先	
1 ビジネスプランニング	一般企業、金融機関、小売、流通業 など	一般事務/営業・販売など	経営系学部
2 ネットショップ	一般企業 など	Webクリエイター/営業・販売など	経営系、情報系学部
3 Webデザイン	Web制作会社、印刷、出版社 など	Webクリエイター/CGクリエイター/グラフィックデザイナーなど	情報・メディア系学部
4 CG・映像・サウンド	映像制作会社、印刷、出版社 など	映像クリエイター/CGクリエイター/グラフィックデザイナーなど	
5 インテリア・CAD	建築業、製造業 など	プランナー/CADオペレーター/営業・販売など	工学系、建築系学部
6 情報福祉	医療機関、福祉施設 など	医療事務/福祉住環境コーディネーターなど	医療・福祉系学部
7 ITエンジニア	ソフトウェア開発会社 など	ネットワークエンジニア/システムエンジニア/プログラマーなど	情報系学部
8 Webプログラミング	ソフトウェア開発会社 など	システムエンジニア/プログラマー/ネットワークエンジニアなど	
9 デジタルゲーム	ソフトウェア開発会社 など	プログラマー/ゲームクリエイターなど	工学系学部
10 ロボット	製造業 など	ハードウェア技術者/カスタマーエンジニア/セールスエンジニア	

プロジェクト学習の成果を活かした課外活動の取組



福岡Game Jam

国際ゲーム開発者協会が大震災の復興に協力するために企画したもので、東北地域の若者達と全国の支部の若者達と共にゲームを作りあげました。本学学生は福岡サテライトから5名が参加し、ビデオゲームの共作を通じて復興に協力しました。



ベンチャー・ビジネスプランコンテスト

本コンテストは大学生等の起業・創業意識を醸成するため、九州経済産業局などの主催で平成13年から実施されています。本学情報メディア学科の3名の学生が若者を対象としたクラウドサービスの提案を行い、優秀賞を獲得しました。



CGコンテスト

短大のCG教育の一環として、日頃勉強したCG作成技術を披露するために毎年開催しています。静止画やアニメーション等、多数の作品が寄せられ、審査の結果11名が入賞し、学長より表彰されました。

学生ニーズに対応したきめ細かな学習支援で修学意欲の向上を図っています。

高短連携教育



3校の高校生に単位互換授業を実施するなど、高短連携教育を積極的に推進

近年少子化による高等教育のユニバーサル化が進み、目的意識が乏しいまま大学・短大に入学する学生が増加しています。本学では入学後のミスマッチの防止や、学生生活の充実のためには、高校時代から短大での学習内容を把握することが有効であると認識し、高短連携教育を推進しています。平成23年度は夏休み期間中に3校（附属城東高校、福智高校、博多青松高校）の学生に対し、単位互換授業を実施しました。今後も協力高校の拡充など、高短連携教育を積極的に推進していきます。

基礎学力の養成



入学前からの継続した補習教育により基礎学力の底上げを実施

短大での学習理解を深化させるためには、高校レベルまでの基礎学力を確立することが重要であり、入学前から個々の学生のレベルに応じた基礎学力向上策を継続的に実施しています。入学予定者に対する作文添削、入学後の個人面談と学力別基礎学力養成講座の開講などを通じ、基礎学力の底上げを図っています。

修学支援体制



学生一人ひとりの顔が見える、きめ細かな学生支援を実施

本学ではクラス担任制度の導入や学生全員の学生カルテを整備するなど、学生一人ひとりの個性に応じた学生支援体制を整備してきました。また、短大生全員が所属する教養ゼミでは教員のみならず、職員も参加し、保護者との連携を強めるなど、教職員一体となって入学から卒業まで責任を持って学生対応を行っています。平成23年度は進路相談室を開設し、進路相談専門職員を常駐させるなど、学生支援体制を進路指導面にも拡大し、一層の充実を図りました。

語学・国際教育



カリフォルニア州立大学イーストベイ校で3週間の英語研修を実施

本学の協定校である、米国カリフォルニア州立大学イーストベイ校にて「夏季英語集中講座」を実施しました。約3週間のプログラムで、参加者は現地の家庭にホームステイするなど、語学力の向上だけでなく、現地の文化に密接に触れ、視野を広げてもらうことも考慮したプログラム構成にしています。参加者からは「将来につながるかけがいのない経験ができた」などの感想が寄せられるなど、人間性の向上に役立っています。

資格取得支援



報奨制度などの取得支援の拡充で在学生の大半(89.3%)が資格取得

本学では実務能力の養成に資する資格取得支援を積極的に実施しています。平成23年度は資格e-ラーニングシステムや資格報奨制度の拡充、夏休み期間中の特別講座開講などの施策を実施し、その結果、**資格受験率96.5% (受験者数373名)、資格取得率89.3% (取得者数343名)**と在学生の大半が資格受験にチャレンジし、合格しました。

資格取得実績の詳細はP50

地域住民会議、ボランティア活動への参加などの地域貢献活動を通じて人間力と社会性を育成しています。

大学の様々な資源を地域へ還元し、地域社会の発展に貢献することは大学の重要な使命であると考えています。また、地域貢献活動を学生の人間力、社会性を養成する重要な教育の場であると考え、地域の皆様と一体となった学生教育をしています。

環境保全や防犯活動を通じて、地域の皆様と一体となった学生教育を行っています。

キャンパスサミット

ゴミ出しマナーや騒音、不法駐車など、かつては大学周辺で暮らす学生たちの生活態度について、地域のみならずから多くの苦情が寄せられていました。そこで、この深刻な問題を解決する手段のひとつとして、地域の町内会長をはじめ、大学教職員、JR、警察署、東区役所、学生自治会で構成される会議体・キャンパスサミットを平成9年に設置。以来、偶数月に実施する会議を今日まで74回重ね、地域社会に対する信頼関係を確立するにいたりしました。



リサイクル事業

平成15年より、大学と地域住民や周辺の商店会のみならずが連携し、リサイクル事業を実施しています。「住みよいまちづくり」「地球にやさしい環境づくり」を推進するために活発な情報交換や情報発信を行うなど、活動拠点となるエコステーションを設置し、地域の老人会の協力も得て、まちの環境美化に努めています。



清掃奉仕活動

かつて、学内のいたるところにあったゴミやタバコの吸い殻の「ポイ捨て」に対し、学生自治会の協力のもと「キャンパスクリーンアップ作戦」を実施し、JR福工大前駅から大学敷地内まで、学生と職員がいっしょになってゴミ拾いに取り組んだ結果、キャンパス内からポイ捨てがなくなってきました。今では大学周辺地域にまで範囲を広げ活動。毎月第3水曜日を「キャンパスクリーンデー」とし、学生・職員・地域のみならずまで清掃活動を行っています。



地域安全防犯パトロール

福工大に隣接する和白東自治協議会では、自分たちの街は自分たちで守ろうと自警団が組織されています。その自警団に本学学生と職員も協力し、平成17年に学生寮の寮生を中心とした夜間巡回の自警団「セーフティパトロール隊」を発足しました。また、平成22年には、一般学生に呼びかけ小学校の下校時間に着目した「コミュニティパトロール隊」を結成し、その活動が財団法人学生サポートセンターより評価され、表彰されました。



施設や人材資源を活用し、地域の文化・スポーツ振興に貢献しています。

エクステンションセンターの公開講座

エクステンションセンターでは、本学学生対象の資格取得講座だけでなく、地域の方々を対象に、様々な講座を開講し、地域の文化拠点の役割も果たしています。パソコン操作方法などの情報関連講座（約50講座）、英会話などの語学、ヨガ、ダンス、各種手芸などの文化教養講座（約200講座）など、平成23年度は331講座を開講し、2,000名を超える地域の方々にご利用いただきました。



MALTAコンサート

日頃から学生支援にご協力いただいている地域の皆様への感謝のため、世界的サクソ奏者である、ジャズミュージシャン・MALTAさんを招き、本学吹奏楽部とのジョイントコンサートを実施しています。地域の方々にとって12月の恒例イベントとして定着し、約2,500名収容の本学FITアリーナは満員となります。



夏休み親子体験教室

毎夏小学生から中学生を対象に、モノづくりの楽しさを体験してもらうために実施しています。平成23年度は、光るプレートやソーラー手こぎボートなどの9つのコースを開講し、167組の親子が参加しました。本学モノづくりセンターの設備を積極的に地域の子供達に利用してもらい、モノづくり体験を通じて将来の夢を描いてもらえるよう、毎年開催しています。



少年スポーツ教室

「挨拶・礼節・協調・体育」の醸成を目的に、地域の少年少女を対象とした少年野球教室などを平成12年より実施しています。当初は小学部（4年生以上）からスタートし、3年後には地域からの熱い要望に応え中学部も開設。今では複数校区から多くの子供達が集い、スポーツを通じて友情を培い、元気に汗をかいています。保護者からは、「ごはんを残さなくなった」「挨拶ができるようになった」「とても明るく元気になった」など、感謝の声が届いています。



学生生活の快適性と利便性に配慮したうえで、高度情報化社会に対応した先進・知的キャンパスを整えています。

西日本屈指の情報設備を誇る本学では、教育研究の基盤的設備としてハード、ソフト両面から情報設備の充実を図っています。また、図書館や学生サービスセンターでも一層利便性、快適性を向上させるための設備整備を実施しました。

学内ネットワークと無線LANの拡張を実施し、教育研究活動の情報基盤を強化しました。

無線LANスポット配置図



本学の学内ネットワークは西日本の大学屈指のものであり、適宜整備拡張を実施しています。平成23年度はキャンパス内無線LANエリアを56箇所拡張し、キャンパス内全域をカバーしました。



最先端のネットワークを支えるサーバーシステム

高度情報化社会で必要な「情報活用能力」を高める、ソフトウェア環境の改善を継続的に実施しています。

学生ポータルサイトを統合し、あらゆる手続きがワンサイトで可能に

従来学務系と情報系サイトに分離していた、学生ポータルサイトを「myFIT」として統合しました。これにより、履修登録、成績照会、出欠確認、シラバス検索、授業評価アンケートの入力、休講情報の確認などの修学関連情報やキャリアポートフォリオでの目標管理、求人検索機能など、本サイトから学生生活に必要なあらゆる手続きや情報検索が可能となりました。



統合学生ポータルサイト

マイクロソフトの包括ライセンス契約を継続

マイクロソフトの包括ライセンス契約を継続しました。ライセンス契約を結ぶことで、学生は在学中無償でマイクロソフトの主要アプリケーション(Power Point, Access, Visual Studio, ウイルス対策ソフトなど)を利用することができます。ビジネス現場で多々活用されるソフトの利用環境を整備することで、学生の情報活用能力や実務能力、資格取得の促進に貢献しています。



最新情報環境の整備

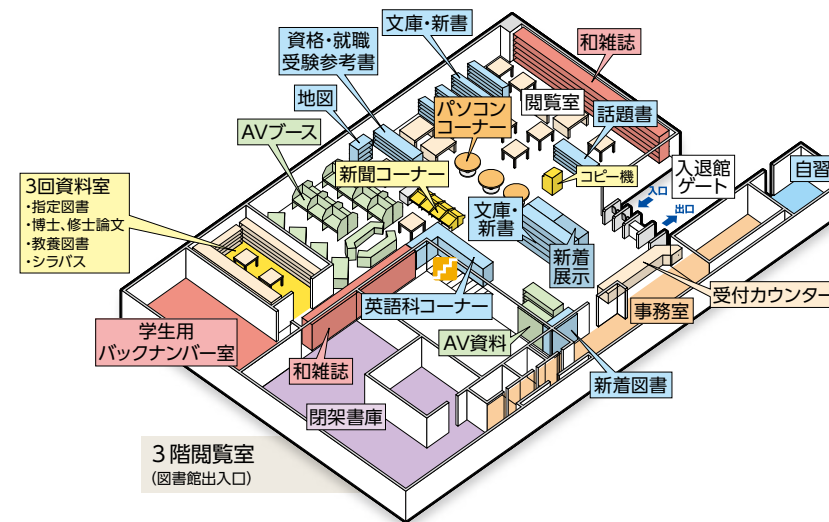
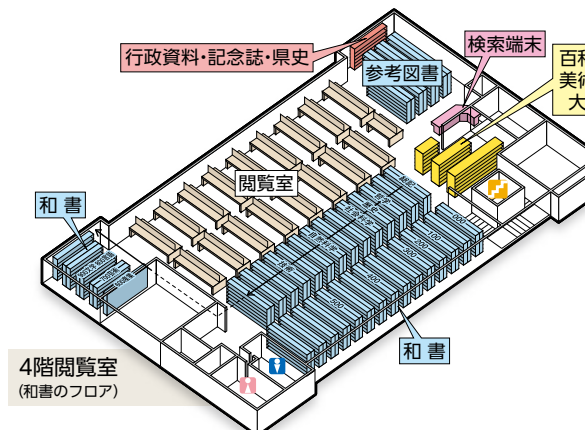
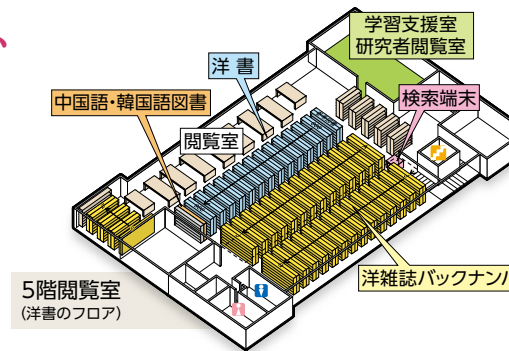
快適な自習スペースの整備に加え、語学や資格取得、就職活動に役立つ蔵書を充実させました。

図書館フロアマップ

3F学習室に英語科コーナーを設け、英語関連図書約1,000冊、同じく英語等関連視聴覚資料75点、資格就職コーナーに資格取得並びに就職支援関連図書を約1,700冊配架しました。また、資料室をリニューアルし、講義の合間なども利用しやすい、自学自習用共同学習スペースを設置しています。



充実した自習用スペース



学生の利便性に配慮したワンストップサービスを実現するため、学生サービスの窓口を集約しました。

従来より「学生サービスセンター」として、教務課、学生課、大学院事務室のオフィスを集約し、学生が履修相談や生活相談を同一オフィスでできるようにするなど、学生サービスの利便性向上に努めてきました。平成23年度はセンターを一部改修し、新たに国際交流支援室を移転させ、留学生関連業務も同一オフィスに集約させました。これにより学生は同一オフィス内で学生生活上必要なあらゆる手続きや相談をできるようになりました。



新装した学生サービスセンター入口

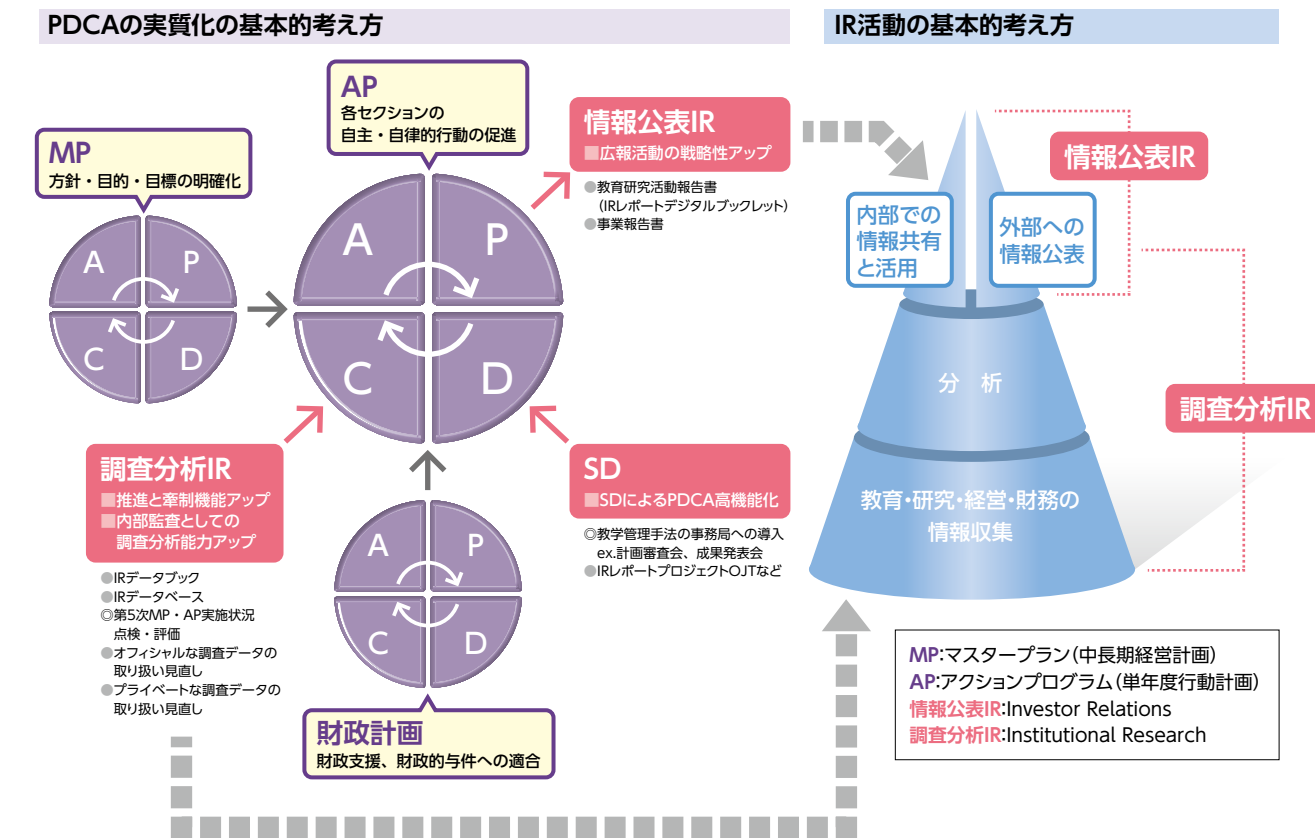
諸計画の計画実現性向上と成果拡大を図る経営管理システムによって、「教育・研究への積極的な投資」と「安定財政」を両立させています。

本学のPDCAを基盤とした経営管理システムは、安定した財政状況と教育研究の成果拡大を両立させ、学外から高い評価を受けてきました。平成24年度よりこの経営管理システムを一層強化すべく、2つのIR“*Institutional Research*”と“*Investor Relations*”を経営管理システムに組み込んで高機能化させる取組を進めています。

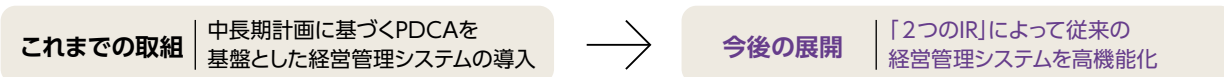
教育・経営の評価・改善を重視した経営管理システムが全国の先進事例として高い評価を受けました。

平成23年度「未来経営戦略推進経費（経営基盤強化に貢献する先進的な取組）」に、「PDCA 実質化と先進的情報公表に向けたIR活動」をテーマとして申請し、採択されました。審査の過程において、「他大学のモデルとなる先進的なガバナンス改革等を行い、経営改善効果が期待できる取組を実施し、学生募集や財務の状況等が堅調に推移している大学」として評価されました。今後、先進事例として全国に向け事例報告される予定です。

■本学の経営管理システムの考え方



■これまでの取組と今後の展開



効率的な経営・財務運営によって、健全な財政状態を堅持しています。

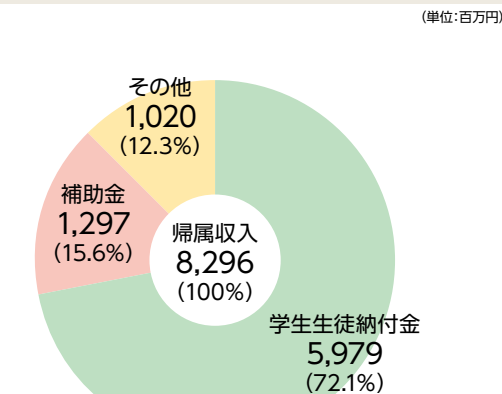
平成23年度決算は、収支状況は帰属収入約82億9,600万円に対し、消費支出が約81億3,000万円となり、約1億6,600万円の収入超過となりました。教育研究の基盤である、人件費と教育研究経費が帰属収入内で十分に確保されており、バランスのいい収支状況となっています。財政状態については、負債比率が低く、学園の総資産の大半が自己資金（正味財産）で賄われた状態となっています。その他の固定資産及び流動資産のうち、35.5%が現金及び金融資産であり、実質流動性が高く、柔軟性の高い健全な財政状態です。

各計算書類の詳細はP53

■収支状況

平成23年度消費収支計算書の概要（平成23年4月1日から平成24年3月31日まで）

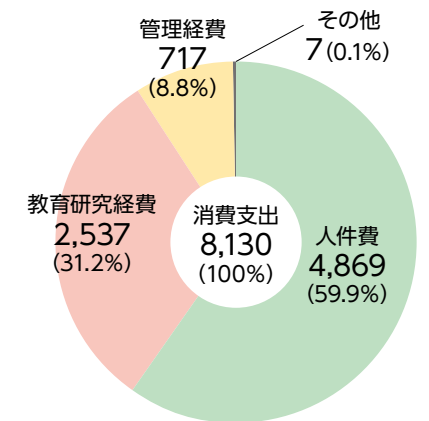
■帰属収入内訳



その他の内訳

・雑収入	490百万円 (5.9%)	・手数料	149百万円 (1.8%)
・事業収入	173百万円 (2.1%)	・寄付金	55百万円 (0.7%)
・資産運用収入	154百万円 (1.9%)		

■消費支出内訳



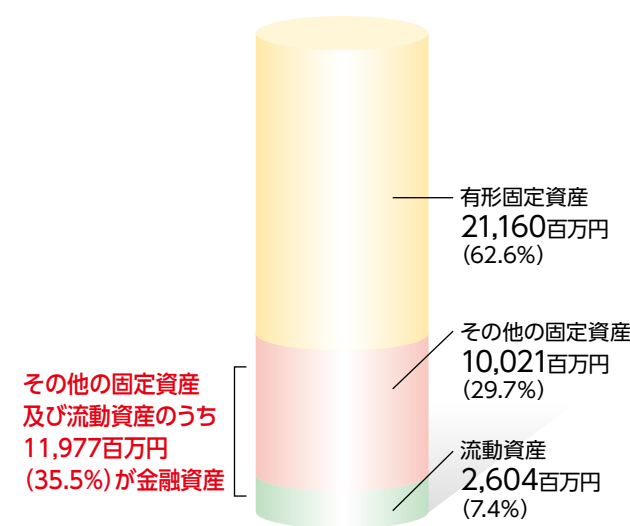
その他の内訳

・資産処分差額	7百万円 (0.1%)	(陳腐化図書除却)
・徴収不能引当金繰入額等	0.2百万円 (0.0%)	

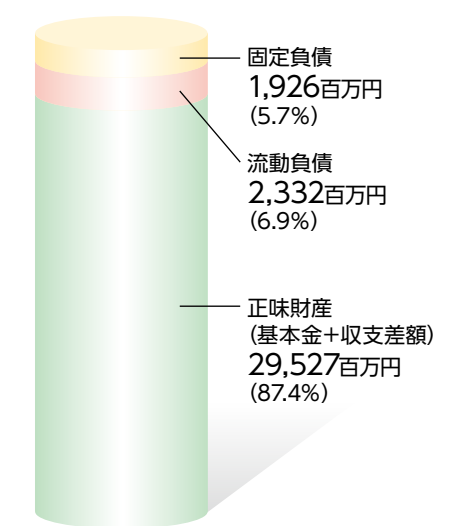
■財政状態

平成23年度貸借対照表の概要（平成24年3月31日現在）

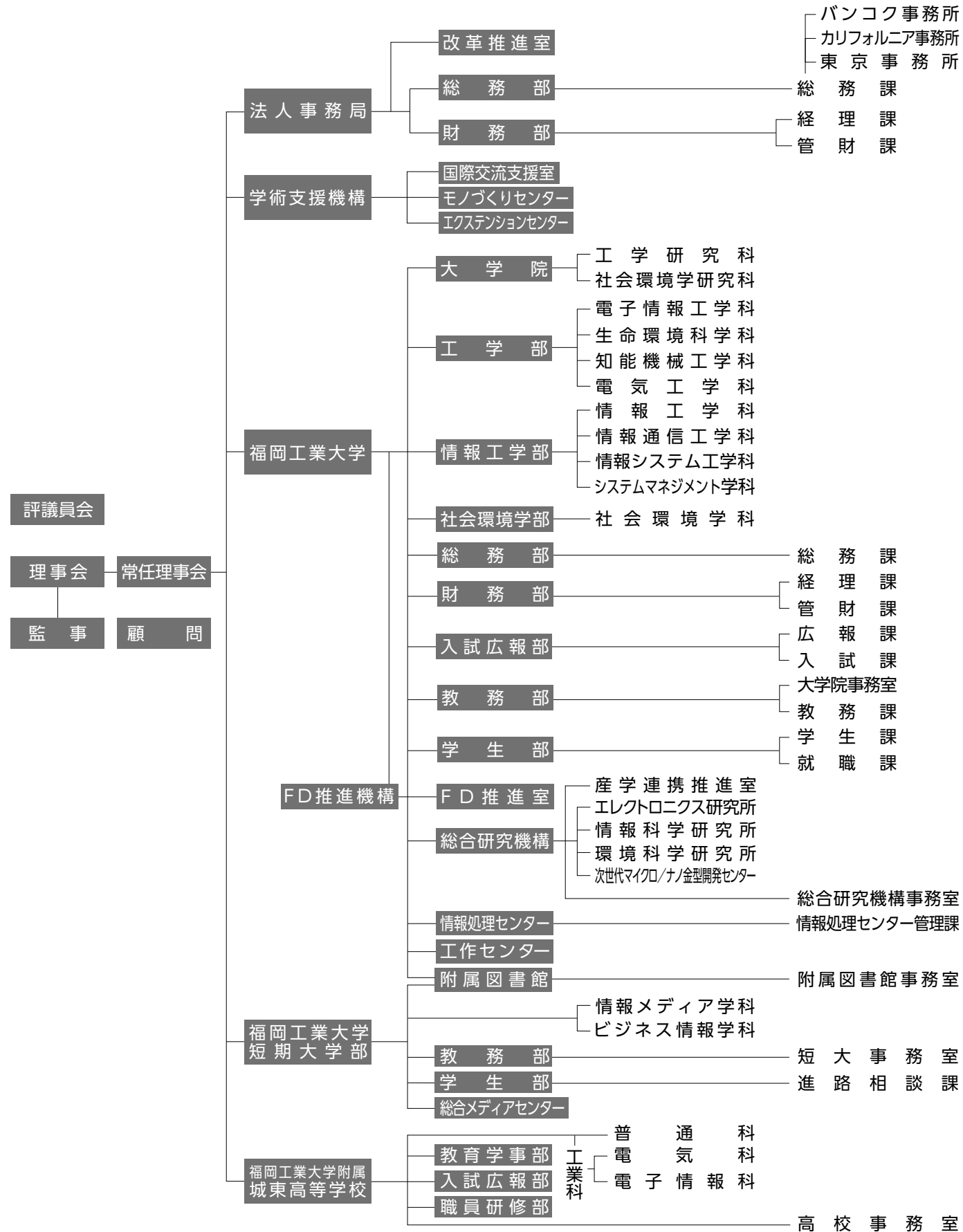
■資産の構成(33,785百万円)



■負債、基本金等の構成(33,785百万円)



組織図



役員等の状況

■役員一覧 (平成24年3月末現在)

職名	氏名	兼職名
理事(理事長)	鶴木 洋二	
理事(常務理事)	大谷 忠彦	
理事	下村 輝夫	大学、短期大学部学長
理事	園田 義男	附属城東高校長
理事(非常勤)	江頭 公成	
理事(非常勤)	川原 正孝	
理事(非常勤)	正司 博行	
理事(非常勤)	園田 勇	
理事(非常勤)	高田 洋征	
理事(非常勤)	森 敏	
監事(非常勤)	小幡 修	
監事(非常勤)	中尾 忠徳	

職名	氏名	兼職名
最高顧問	麻生 渡	

■部科長一覧 (平成24年4月1日現在)

職名	氏名
工学部長	久保 英範
情報工学部長	西田 茂人
社会環境学部長	野上 健治
工学研究科長	今村 正明
社会環境学研究科長	阿部 晶
教務部長	前田 洋
学生部長	安永 誠
図書館長	赤木 文男
情報処理センター長	松尾 敬二
総合研究機構長	松尾 一壽
入試広報部長	下村 輝夫(学長兼務)

役員区分	定数	実数	選任条項別実数※
理事	9～13	10	1号2名、2号1名、3号7名
監事	2～3	2	
評議員	19～27	22	1号4名、2号3名、3号3名、4号12名

※1号理事：学長・校長、2号理事：評議員、3号理事：学職経験者
 1号評議員：学長・校長・教職員、同2号：卒業生、同3号：父母
 同4号：学職経験者

職名	氏名
電子情報工学科長	田中 秀司
生命環境工学科長	三田 肇
知能機械工学科長	仙波 卓弥
電気工学科長	大山 和宏
情報工学科長	山内 寛行
情報通信工学科長	若原 俊彦
情報システム工学科長	木室 義彦
システムマネジメント学科長	横田 将生
社会環境工学科長	阿山 光利

教職員数

■教員数 (平成24年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別	37	1	38	28	2	30	19	0	19	5	0	5	2	0	2
教授	15	1	16	15	1	16	5	1	6	4	0	4	2	0	2
准教授	1	0	1	5	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0
講師	3	3	6	4	1	5	2	2	4	1	0	1	0	0	0
助教	43	15	58	44	6	50	7	1	8	7	3	10	6	5	11
非常勤教員															
合計	99	20	119	96	10	106	33	4	37	17	3	20	10	7	17

■職員数 (平成24年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学						福岡工業大学短期大学部					
	教育系職員			管理系職員			教育系職員			管理系職員		
区分	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別	39	12	51	14	2	16	3	1	4	0	0	0
専任職員	7	18	25	1	5	6	0	3	3	0	0	0
嘱託職員	0	19	19	0	7	7	0	1	1	0	0	0
派遣職員												
合計	46	49	95	15	14	29	3	5	8	0	0	0

設置学部・学科/専攻概要

資格について ○/指定科目の単位を取得し、在学中または卒業と同時に取得できる資格
 ●/指定科目の単位を取得し、実務経験を添って取得できる資格 ※1: MOS/Microsoft Office Specialistの略。Word, Excel, Power Point, Accessの習得レベルを測る。支援している内容は各学科で異なります。
 ○/指定科目の単位を取得し、一部の学科試験が免除される資格 ※2: LPIC/Linux Professional Institute Certification (Linux技術者認定資格) の略。
 ●/学科で取得を支援している資格 ※3: CCNA/Cisco Certified Network Associateの略。
 ○/カリキュラムの特色を生かした比較的取得しやすい資格 ※4: TOEIC/Test of English for International Communication

設置校	学部・研究科名	学科名	設置コース	教育研究上の目的	教員構成(人)*	取得可能学位	取得可能な教員免許	取得支援を実施している資格※			
大学	工学部	電子情報工学科	電子情報工学先端コース 電子情報工学基盤コース	現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められる。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。	教授 10 准教授 2 助教 1	学士 (工学)	高等学校教諭一種免許状(工業)	<ul style="list-style-type: none"> ■基本情報技術者 ■ITパスポート ■MOS※1 	<ul style="list-style-type: none"> ■第一級陸上無線技術士 ■第一級陸上特殊無線技士 		
		生命環境科学科	環境エネルギー・物質化学系 生命化学・食品化学系	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。	教授 8 准教授 5		<ul style="list-style-type: none"> ○食品衛生管理者・食品衛生監視員 ○毒物劇物取扱責任者 ■公害防止管理者(水質) 	<ul style="list-style-type: none"> ■バイオ技術認定 ■危険物取扱者 □環境測定分析士 	<ul style="list-style-type: none"> □環境計量士 		
		知能機械工学科	知能機械設計コース 知能機械創成コース (JABEE認定)	情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。	教授 9 准教授 4 助教 2		<ul style="list-style-type: none"> ○修習技術者(→技術士補) ■CAD利用技術者 ■機械設計技術者 	<ul style="list-style-type: none"> ■機械保全技能士検定 			
		電気工学科	電気総合エンジニアコース 電気開発エンジニアコース	日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。	教授 6 准教授 4 助教 2 講師 1		<ul style="list-style-type: none"> ●■電気主任技術者 				
	情報工学科	情報工学科		コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CGシステム LSI などの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。	教授 12 准教授 3 助教 3 講師 1	学士 (情報工学)	高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	<ul style="list-style-type: none"> ■基本情報技術者 ■LPIC※2 ■Webクリエイター能力認定試験 	<ul style="list-style-type: none"> □MOS※1 □CGエンジニア検定 □画像処理エンジニア検定 	<ul style="list-style-type: none"> □マルチメディア検定 	
		情報通信工学科	情報ネットワーク工学コース 情報通信先端工学コース (JABEE認定)	今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、独創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。	教授 9 准教授 3 助教 1		<ul style="list-style-type: none"> ○第一級陸上特殊無線技士 ○修習技術者(→技術士補) ○第三級海上特殊無線技士 	<ul style="list-style-type: none"> ○電気通信主任技術者 ○電気通信の「工事担当者」 ○第一級陸上無線技術士 	<ul style="list-style-type: none"> ■CCNA※3 ■LPIC※2 		
		情報システム工学科	情報システム設計コース 情報システム技術コース (JABEE認定)	情報処理基礎技術、情報ネットワーク、システム LSI、知能情報処理、ロボット工学、制御工学などの専門知識に加え、技術者倫理、高いコミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力、計画実行力、生産学習能力を身につけさせるための教育を行い、国際的に活躍できる情報システム技術者の人材の養成を目的とする。	教授 4 准教授 6 講師 3		<ul style="list-style-type: none"> ○修習技術者(→技術士補) ■基本情報技術者 ■ITパスポート 	<ul style="list-style-type: none"> □CGエンジニア検定 □画像処理エンジニア検定 □マルチメディア検定 			
		システムマネジメント学科		高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間工学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。	教授 4 准教授 4 講師 1		<ul style="list-style-type: none"> ■基本情報技術者 ■ITパスポート ■Webクリエイター能力認定試験 	<ul style="list-style-type: none"> □MOS※1 □CGエンジニア検定 			
	学部	社会環境	社会環境学科		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。	教授 19 准教授 6 助教 4	学士 (社会環境学)	高等学校教諭一種免許状(公民) 中学校教諭一種免許状(社会)	<ul style="list-style-type: none"> ■日商簿記検定1・2・3級 □環境社会検定試験(eco検定) □宅地建物取引主任者資格試験 	<ul style="list-style-type: none"> □TOEIC※4 □実用英語検定 	
	大学院	工学研究科	物質生産システム工学専攻		物質生産システム工学専攻は、電子物性工学、機能材料応用工学、エネルギーシステム工学及び設計生産システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教授 19 准教授 2	博士 (工学)				
知能情報システム工学専攻				知能情報システム工学専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教授 16 准教授 1						
電子情報工学専攻				現代社会は、コンピュータを先頭とした電子情報技術が著しく発達し、広く普及している社会である。本専攻では、広い視野に立ち、電子情報工学の理論及び応用を教授、研究し、高度な専門的知識を背景に、独創的な研究開発能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。	教授 9 准教授 2 助教 1		高等学校教諭専修免許状(工業)				
生命環境科学専攻				本学の建学の綱領に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、科学技術や社会の進歩向上に寄与する人材を育成することを目的とする。具体的に本専攻では、広い視野に立ち、精深い学識を授け、物質工学及び生物工学を中心とした専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。	教授 9 准教授 4 助教 1		高等学校教諭専修免許状(理科)				
知能機械工学専攻				機械工学は、ナノ・マイクロテクノロジーから巨大システムまで基盤となる技術を開拓していく学問分野です。機械工学はそれ自身の高度化、先進化及び微細化とともに電子情報技術の飛躍的な発達により機械の知能化が進んでいます。本専攻では機械工学の基礎分野の知識を十分修得した上で、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 9 准教授 2		高等学校教諭専修免許状(工業)				
電気工学専攻				本専攻は電気系工学・技術の分野において活躍できる、高度の問題解決能力と研究開発能力を備えた技術者を育成することを教育の目的とする。このため工学部電気系学科修了課程の基礎知識を有する学生を対象に、進歩を続ける技術に長期的に対応して行けるよう電気関連主要分野の深い基礎理論を講究するとともに、並行してこの分野の先端的研究テーマについての研究に取り組み創造的対応能力を培う。	教授 7 准教授 3 助教 1	修士 (工学)	高等学校教諭専修免許状(工業)				
情報工学専攻				人工知能や集積回路、マルチメディアや画像処理、データベースやソフトウェア開発などの情報工学分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 10 准教授 2		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)				
情報通信工学専攻				携帯電話や無線 LAN、光ファイバ伝送などの情報伝送技術やインターネットなどの情報ネットワークの分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための独創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 7 准教授 3 助教 1		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)				
管理工学専攻				人間社会に関わるあらゆるものをシステムとしてとらえて、それらのシステムから得られる情報を利用して、システムの調査、分析、設計、評価かつ必要に応じて制御設計ができるようにする。とくに、生産管理システム、医用生体システム、生体情報システム、ビジネスシステム、視覚情報システム、一般的物理システム、情報メディアに関して、教育研究を行うことを目的とする。	教授 6 准教授 7		高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)				
研究科			社会環境学	社会環境学専攻		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。	教授 10 准教授 4 助教 2	修士 (社会環境学)			
短期大学部		情報メディア学科		情報メディア学科は、コンピュータの基礎および応用技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として情報技術、情報メディアおよびエレクトロニクスの各分野で即戦力として働ける技術者を養成することを目的とする。	教授 5 准教授 4 助教 1	短期大学士		<ul style="list-style-type: none"> ■基本情報技術者試験 ■応用情報技術者試験 ■ITパスポート試験 ■秘書検定 ■日商 P C 検定 	<ul style="list-style-type: none"> ■建築 CAD 検定 ■CAD 利用技術者試験 ■実用英語技能検定 ■色彩検定 ■医療事務 	<ul style="list-style-type: none"> ■CG エンジニア検定 ■マルチメディア検定 ■日本語能力検定 ■日商簿記検定 ■福祉住環境コーディネーター 	<ul style="list-style-type: none"> ■CG クリエイター検定 ■ドットコムマスター ■TOEIC
		ビジネス情報学科		ビジネス情報学科は、現代の情報化社会で必要とされる情報技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として電子ビジネス、福祉・医療あるいは小売業などの各種産業の事務部門や管理・運営部門で活躍できる人材を養成することを目的とする。	教授 2 准教授 4						

※平成24年4月1日現在

平成23年度学位授与数

■学士授与数

学部名	学士授与数
工学部	335
情報工学部	349
社会環境学部	160

■短期大学士授与数

学科名	短期大学士授与数
ビジネス情報学科	103
情報メディア学科	57

■博士、修士授与数

研究科名	修士授与数	博士授与数
工学研究科	90	5
社会環境学研究科	3	0

■JABEEコース修了者数

コース名	修了者数
知能機械創成コース	9
情報通信先端工学コース	6
情報システム技術コース	3

学生数

■在籍学生数 (各年5月1日現在)

学部	学科	定員	平成23年度学生数					平成24年度学生数		
			現員	定員充足率(倍)	留年者数	退学者数	除籍者数	現員	定員充足率(倍)	前年比較
工学部	電子情報工学科	320	386	1.21	43	17	1	386	1.21	0
	生命環境科学科	320	419	1.31	26	9	1	426	1.33	7
	知能機械工学科	400	500	1.25	54	28	2	520	1.30	20
	電気工学科	320	416	1.30	64	23	3	410	1.28	△6
	合計	1,360	1,721	1.27	187	77	7	1,742	1.28	21
情報工学部	情報工学科	480	637	1.33	45	18	3	608	1.27	△29
	情報通信学科	320	379	1.18	40	16	6	413	1.29	34
	情報システム工学科	320	402	1.26	45	15	2	429	1.34	27
	システムマネジメント学科	240	322	1.34	23	7	1	322	1.34	0
	合計	1,360	1,740	1.28	153	56	12	1,772	1.30	32
社会環境学部	社会環境学科	660	768	1.16	56	23	6	779	1.18	11
大学院	工学研究科(修士)	116	174	1.50	7	5	1	138	1.19	△36
	工学研究科(博士)	12	14	1.17	0	0	0	17	1.42	3
	社会環境学研究科(修士)	12	9	0.75	1	0	0	13	1.08	4
	合計	140	197	1.41	8	5	1	168	1.20	△29
福岡工業大学・大学院合計		3,520	4,426	1.26	404	161	26	4,461	1.27	35
短期大学部	情報メディア学科	210	253	1.20	20	24	3	240	1.14	△13
	ビジネス情報学科	110	131	1.19	5	6	2	110	1.00	△21
福岡工業大学短期大学部合計		320	384	1.20	25	30	5	350	1.09	△34

■留学生数推移

設置校等	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
	中国	その他	中国	その他	中国	その他	中国	その他
大学	73	1	89	0	104	0	95	1
短期大学部	7	0	9	0	12	0	11	0
大学院	30	1	39	3	34	2	36	7
研究生	5	0	6	0	6	0	2	0
合計	115	2	143	3	156	2	144	8

卒業生累計、同窓会員数

■卒業生累計

34,391名 (平成24年3月末現在)

■地域別同窓会会員数 (平成24年3月末現在)

地域名	会員数	地域名	会員数
北海道・東北	21	中国	2,891
関東	665	四国	1,139
東海	252	九州・沖縄	14,658
関西・北陸	665	合計	20,291

平成24年度入試状況

■大学

学部	学科	定員	特別推薦			一般推薦			一般A方式			一般C方式			留学生			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学部	電子情報工学科	80	23	23	23	24	22	14	176	85	31	325	184	28	0	0	0	548	314	96
	生命環境科学科	80	32	30	30	33	15	9	173	70	19	307	177	41	1	1	0	546	293	99
	知能機械工学科	100	37	34	34	50	32	17	252	131	52	372	203	47	7	4	3	718	404	153
	電気工学科	80	38	36	36	33	25	14	227	92	27	268	117	12	1	1	1	567	271	90
	学部合計	340	130	123	123	140	94	54	828	378	129	1,272	681	128	9	6	4	2,379	1,282	438
情報工学部	情報工学科	120	52	48	48	57	41	29	282	100	37	515	204	25	1	1	1	907	394	140
	情報通信工学科	80	40	37	37	26	25	18	104	31	13	274	148	35	1	1	1	445	242	104
	情報システム工学科	80	43	39	39	21	17	10	150	83	43	367	125	12	0	0	0	581	264	104
	システムマネジメント学科	60	31	31	31	27	21	12	66	28	5	242	143	29	1	1	1	367	224	78
	学部合計	340	166	155	155	131	104	69	602	242	98	1,398	620	101	3	3	3	2,300	1,124	426
社会環境学部	社会環境学科	150	81	80	80	42	38	11	112	89	37	297	256	50	7	3	3	539	466	181
	合計	830	377	358	358	313	236	134	1,542	709	264	2,967	1,557	279	19	12	10	5,218	2,872	1,045

■大学院修士課程

研究科	専攻	定員	一般			協定校※			外国人			合計		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	7	7	7	4	3	3	0	0	0	11	10	10
	生命環境科学専攻	8	12	11	11	1	1	1	0	0	0	13	12	12
	知能機械工学専攻	8	7	5	4	5	5	5	1	0	0	13	10	9
	電気工学専攻	8	6	4	4	0	0	0	0	0	0	6	4	4
	情報工学専攻	10	13	13	13	2	2	2	0	0	0	15	15	15
	情報通信工学専攻	8	7	6	6	1	1	1	0	0	0	8	7	7
	管理工学専攻	8	9	7	5	3	3	3	0	0	0	12	10	8
	工学研究科 計	58	61	53	50	16	15	15	1	0	0	78	68	65
社会環境学研究科	社会環境学専攻	6	11	10	6	0	0	0	2	1	1	13	11	7
	合計	64	72	63	56	16	15	15	3	1	1	91	79	72

※協定校…キングモンクット工科大学、南京理工大学、青島科技大学

■大学院博士後期課程

専攻	定員	一般			外国人			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
物質生産システム工学専攻	2	2	2	2	0	0	0	2	2	2
知能情報システム工学専攻	2	3	3	3	1	1	1	4	4	4
合計	4	5	5	5	1	1	1	6	6	6

■短期大学部

学科	定員	特別推薦			一般推薦			自己推薦対話型			一般			C方式			留学生			合計		
		志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
情報メディア学科	105	41	41	41	7	7	3	23	23	23	66	57	35	78	78	10	2	2	1	217	208	113
ビジネス情報学科	55	30	30	30	11	9	2	10	10	10	8	5	4	65	65	1	2	2	2	126	121	49
合計	160	71	71	71	18	16	5	33	33	33	74	62	39	143	143	11	4	4	3	343	329	162

平成23年度進路状況

平成24年3月卒業生

■大学

		(単位:名)			
学部	学科	卒業生	進学者	就職希望者	就職者
工学部	電子情報工学科	80	6	63	60
	生命環境科学科	82	11	51	47
	知能機械工学科	103	4	91	89
	電気工学科	70	4	63	60
	学部合計	335	25	268	256
情報工学部	情報工学科	156	13	103	97
	情報通信工学科	54	5	43	41
	情報システム工学科	63	3	42	40
	システムマネジメント学科	76	2	54	51
	学部合計	349	23	242	229
社会環境学部	社会環境学科	160	6	111	105
合計		844	54	621	590

■大学院

		(単位:名)			
研究科	専攻	卒業生	進学者	就職希望者	就職者
工学研究科	電子情報工学専攻	8	0	3	1
	生命環境工学専攻	9	1	5	3
	知能機械工学専攻	20	2	17	17
	電気工学専攻	9	1	8	8
	情報工学専攻	20	1	13	12
	情報通信工学専攻	16	1	11	10
工学研究科	管理工学専攻	8	1	5	5
	工学研究科 計	90	7	62	56
社会環境学研究科	社会環境学専攻	3	0	1	1
合計		93	7	63	57

■短期大学部

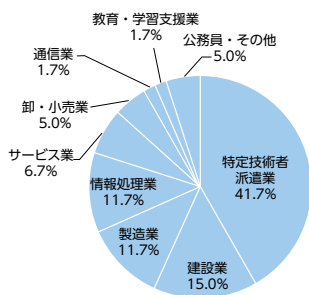
		(単位:名)			
学科	卒業生	進学者	就職希望者	就職者	
情報メディア学科	103	49	33	32	
ビジネス情報学科	57	5	38	37	
合計	160	54	71	69	

主要就職先

平成24年3月卒業生

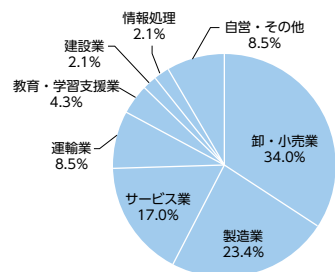
電子情報工学科

アプライドマテリアルズジャパン(株) / (株)九電工 / (株)富士通アドバンストエンジニアリング(株) / (株)きんでん / 大明(株) / 日本空調サービス(株) / (株)九州設備公社 / (株)九州山光社 / 九州防災工業(株) / 藤工業(株) / 長崎船舶整備(株) / 大和冷機工業(株) / オーテック電子(株) / 山菱電機(株) / 日本システムウエア(株) / (株)ランドコンピュータ / (株)CJソリューションズ / 宮崎県立都城工業高等学校 / 三菱電機システムサービス(株) / 理研計器西日本サービス(株) など



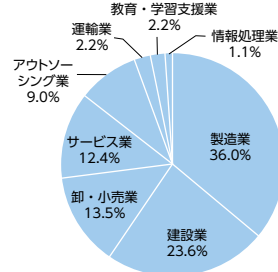
生命環境科学科

(株)武蔵野 / (株)武蔵野フーズ / (株)三和化学研究所 / (株)九食 / ムライケミカルパック(株) / ニシハラ理工(株) / タキゲン製造(株) / (株)精電社 / 能美防災(株) / 山九(株) / ホシザキ北九(株) / 南国産産(株) / (株)ドラッグイレブン / (株)コスモ薬品 / (株)マルコウ / 医療法人社団博文会 / 福岡県立朝倉東高等学校 など



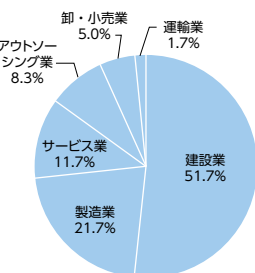
知能機械工学科

西日本旅客鉄道(株) / ユニ・チャーム(株) / (株)九電工 / 三菱重工業(株) / 長崎造船所(株) / 日立プラントエンジニアリングアンドサービス / 住友金属工業(株) / 小倉製鉄所(株) / 神戸製鋼所加古川製鉄所 / TOTOエンジニアリング(株) / 山九プラントテクノ(株) / (株)きんでん / 不二熱学工業(株) / パナソニック電気テクノサービス(株) / (株)クリハラント / (株)エムビーエス / 四電エンジニアリング(株) / (株)武蔵野 / タキゲン製造(株) / 理想科学工業(株) / (株)川本製作所 / 富士機械製造(株) / ヤンマー建機(株) / 本多機工(株) / (株)IH回転機械 / 大分キャン(株) / 福岡県立香椎工業高等学校 / 佐賀県立有田工業高等学校 / 三菱電機ビルテクノサービス(株) / 下関三菱エンジニアリング(株) など



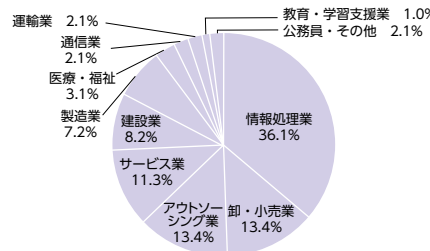
電気工学科

富士通(株) / (株)九電工 / 富士古河E&C(株) / 三菱電機プラントエンジニアリング(株) / (株)中電工 / パナソニック電気エンジニアリング(株) / 六興電気(株) / 太平電業(株) / 昭和不動産(株) / (株)クリマテック / 三栄電気工業(株) / (株)九州設備公社 / 西日本プラント工業(株) / 千代田計装(株) / エスピーエス(株) / アユミ電業(株) / 西日本高速道路エンジニアリング九州(株) / (株)新大倉 / (株)新出光ファシリティー / (株)日本電気化学工業 / (株)戸畑製作所 / 日本エレベーター製造(株) / 東洋ホイス(株) / (株)ジェイアール西日本新幹線テクノス / 大分キャン(株) / (株)アクタ / 丸東産業(株) / 久留米運送(株) など



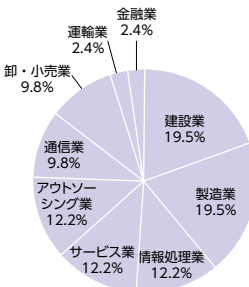
情報工学科

NECフィールディング(株) / 富士電機ITソリューション(株) / 沖ウィンテック(株) / NECネットワークエスアイ(株) / (株)東計電算 / 和興エンジニアリング(株) / 大和冷機工業(株) / (株)ジーエスエレクトロ九州 / (株)重松製作所 / (株)JA-LPガス情報センター / (株)エス・アイ・インフォジェニック / (株)日本デジタル研究所 / (株)エイチ・エス・エス / (株)アイエスエフネット / (株)ジョイント・システム・サービス / (株)paperboy&co. / Exys(株) / (株)ネット・オプション / (株)電子工学センター / JR九州システムソリューションズ(株) / (株)システムライフ / アドバンスドマネージメントコンサルティング(株) / (株)サンテック / (株)システムソフト / (株)システムクワイート / グローバルプレインズ(株) / (株)福岡情報ビジネスセンター / NJCソフトウェア(株) / (株)NORIBA / (株)EWMファクトリー / (株)システムシシツ / (株)レキサス / 富士通ネットワークソリューションズ(株) / 日邦無線電機(株) / 九州日立物流サービス(株) など



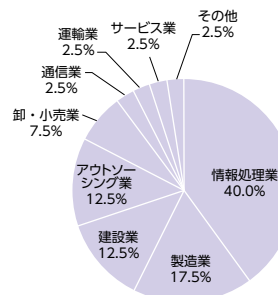
情報通信工学科

ソフトバンク・テクノロジー(株) / (株)エヌ・ティ・ティネオメイト / (株)協和エシオ / 西部電気工業(株) / (株)東計電算 / 大明(株) / 三和電子(株) / 和興エンジニアリング(株) / (株)イーネット / 東建コーポレーション(株) / (株)ふくれん / メークス / マル厨工業(株) / 光高工(株) / (株)ミリネット / (株)アイエスエフネット / (株)NTT西日本ホームテクノ九州 / KCCSモバイルエンジニアリング(株) / 九州三菱電機販売(株) など



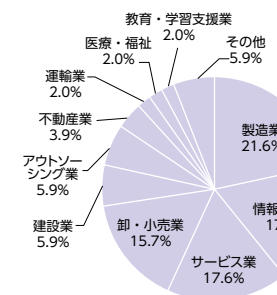
情報システム工学科

九州旅客鉄道(株) / オムロンフィールドエンジニアリング九州(株) / 沖ウィンテック(株) / (株)日本コンピュータ開発 / 日本エレクトロニクスシステムズ(株) / 田中食品(株) / (株)新学社 / サカエテクノ(株) / 大井電気(株) / ユニテックス(株) / (株)アイエスエフネット / (株)キーストーン / 協立システム開発(株) / (株)カーネルコンセプト / (株)カーネルグループ / 九州ビジネス(株) / マイクロコート(株) / (株)コンピュータ利用技術研究所 / (株)サンレイズ / (株)オートメイション・テクノロジ / (株)テクノス / (株)KIS / (株)光通信 / イオン九州(株) など



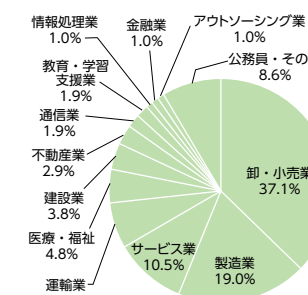
システムマネジメント学科

TOTO(株) / JFEシステムズ(株) / (株)富士通エフサス / 三光設備(株) / (株)オンテックス / (株)九食 / (株)都屋 / (株)ジーエフアレス / フジアート(株) / メークス(株) / 大倉電気(株) / 丸東産業(株) / 国際コンピュータ(株) / アイコムシステム(株) / ユニティ・ソフト(株) / (株)アイエスエフネット / (株)エム・ワン・エンタープライズ / (株)ミロク情報サービス / (株)立花エレクトック / (株)コスモ薬品 / 日産プリンス福岡販売(株) / 山口ダイハツ販売(株) / (株)トライアルカンパニー / (株)別大興産 など



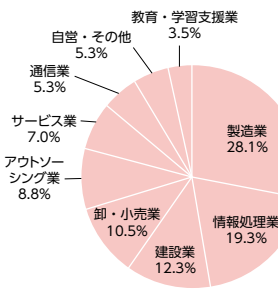
社会環境学科

九州旅客鉄道(株) / 西日本電信電話(株) / 西部ガス(株) / ヤマト運輸(株) / (株)九電工 / 吉原建設(株) / タキゲン製造(株) / 大和冷機工業(株) / 厚木プラスチック(株) / 久留米運送(株) / (株)レッドパロン / ホシザキ北九(株) / (株)新日本エナジー / 九州東邦(株) / ホシザキ南九(株) / (株)ライトオン / (株)ヨドバシカメラ / ヤンマー農機販売(株) / 九州カンパニー / (株)コスモ薬品 / (株)ホンダカーズ福岡 / 医療法人済世会河野名島病院 / 医療法人財団池友会福岡新水巻病院 / 長崎県農業共済組合連合会 など



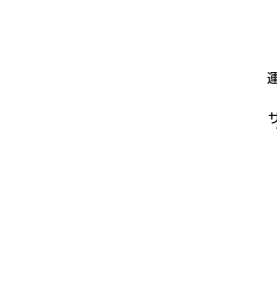
大学院

(株)東芝 / 日本放送協会 / (株)牧野フリス製作所 / 横河フィールドエンジニアリングサービス(株) / (株)NTTファシリティー / 大明(株) / 西日本システム建設(株) / (株)九電工 / ロイヤル食品(株) / アネスト岩田(株) / (株)日立エンジニアリング・アンド・サービス / (株)ケービン / ジャコ(株) / (株)日立情報制御ソリューションズ / (株)エヌ・ティ・ティネオメイト / 高島波熱線(株) / (株)セパンイーレブ / ジャパン / 川重テクノロジ / (株) など



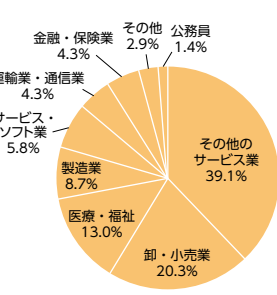
情報メディア学科

富士通(株) / 大和冷機工業(株) / (株)電子工学センター / (株)プライムエンジニアリング / (株)新藤 / (株)サン有明電気 / ビッグモーターグループ / 湖東学園グループ / (株)サンメディカル / みどり野リハビリテーション病院 / (株)キャリアアテンダント / (株)エフスタイルドットコム / (株)IBUKI など



ビジネス情報学科

(株)福岡銀行 / 西日本シティ銀行(株) / (株)九州コーユー / (株)トヨタレンタリース福岡 / 医療法人財団 池友会 福岡新水巻病院 / (株)プラムエンジニアリング / (株)メガネット / (株)東横イン / 八光オートメーション(株) / (株)かがし屋 / (株)IBUKI / 医療法人社団 博文会 ひらの歯科 / くまもと耳鼻咽喉科形成外科クリニック / ハンズマン(株) など



主要進学先

平成24年3月卒業生

■大学

- 福岡工業大学大学院
- 兵庫教育大学大学院

■短期大学部

- 九州工業大学情報工学部電子情報工学科
- 九州工業大学情報工学部システム創成情報工学科
- 東京情報大学総合情報学部情報システム学科
- 東京工科大学メディア学部インタラクティブメディアコース
- 九州産業大学工学部機械工学科
- 九州産業大学工学部建築学科
- 九州産業大学経済学部(夜間)経済学科
- 九州産業大学情報科学部情報科学科
- 九州産業大学経営学部産業経営学科
- 日本文理大学工学部情報メディア学科
- 久留米工業大学工学部情報ネットワーク工学科
- 九州情報大学経営情報学部経営情報学科
- 九州情報大学経営情報学部情報ネットワーク学科
- 福岡大学商学部第二部商学科
- 福岡工業大学工学部
- 福岡工業大学情報工学部
- 福岡工業大学社会環境学部

■大学院

- 福岡工業大学大学院博士後期課程

学費・徴収金

■大学

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	220,000	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	61,300	1,428,300
	2年次以降	-	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	-	1,147,000
社会環境学部	1年次	220,000	630,000	150,000	-	10,000	19,000	61,300	1,090,300
	2年次以降	-	630,000	150,000	-	10,000	19,000	-	809,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費28,000円、後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円 部分は前・後期分納 ※教科書代が別途必要です。

■短期大学部

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	35,750	1,033,750
	2年次以降	-	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	828,000
ビジネス情報学科	1年次	170,000	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	35,750	1,033,750
	2年次以降	-	550,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	828,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費14,000円、後援会費10,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円 部分は前・後期分納 ※教科書代が別途必要です。

奨学制度

■特別奨学金

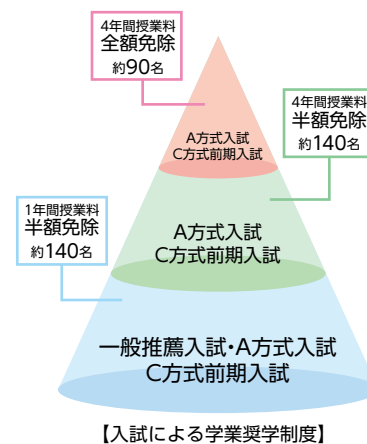
	学業特別奨学金	特技特別奨学金	経済的理由による特別奨学金
対象者	【2～4年次生】 学科から推薦された成績優秀者	【1年次生】 入試(A方式、C方式前期、 一般推薦)上位合格者	スポーツ・音楽の強化クラブ から推薦された者
採用人数	各学年30名以内	-	若干名
給付期間	1年間	4年間または1年間	1年間(最大4年間)
金額	授業料の半額免除	授業料の全額または半額免除	授業料の全額または半額と 施設設備費免除
返済	不要	不要	不要
備考	学業成績が一定に満たない場合等は取消しとなる		

■同窓会育英金

対象者	2年次生以上及び院生で 勉学意欲があり、経済的に 修学が困難な者
採用人数	7名
給付期間	1年間(最大2年間)
金額	授業料の半額免除
返済	不要

■私費外国人留学生に対する減免措置

対象者	私費外国人留学生で一定の 成績を修めている者 【2～4年次生】
給付期間	1年間
金額	授業料の半額免除
返済	不要
備考	指定校からの留学生は 1年次生から対象となる



■取得支援をしている奨学金

奨学金の種類	奨学金の内容
日本学生支援機構奨学金	第一種奨学金(無利子貸与)、第二種奨学金(有利子貸与)
地方公共団体奨学金	北九州市教育委員会奨学金、各県、市による奨学金(一部給付あり)など
その他奨学金	交通遺児育英会奨学金、北田奨学会記念財団奨学金など

課外活動

■平成23年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	プロジェクト名	メンバー数
硬式野球部	80	バトミントン部	46	吹奏楽部	74	電気自動車	17
女子柔道部	8	バレーボール部	25	自動車工学研究部	15	ソーラーカー	21
ラグビー部	48	パワーリフティング部	10	音楽研究部	62	ロボコン	31
アイスホッケー部	22	陸上競技部	11	音響部	41	ロボカップ	26
アーチェリー部	7	合気道部	28	情報技術研究部	56	ロボット相撲	21
弓道部	42	ビリヤード同好会	24	フォークソング部	28	太陽光発電	4
剣道部	11	ゴルフ同好会	2	写真部	40	手作りアクセサリー	18
硬式テニス部	37	ダンス同好会	23	ロック部	23	ピオトープ	25
サッカー部	24	トリアスロン愛好会	3	モダンアート部	45	飛行ロボコン	6
準硬式野球部	25	ハンドボール愛好会	20	オールラウンドミュージック部	93	二足歩行ロボット	21
少林武術部	3	フットサル愛好会	48	マルチメディアコミュニケーション同好会	18	真空管アンプ	10
少林寺拳法部	4	バスケットボール愛好会	42	芸術愛好会	2	計	200
水泳競技部	13	アクションサッカー愛好会	19	オアシス同好会	52		
ソフトテニス部	24	サバイバルスポーツ愛好会	10	ファッション愛好会	20		
ソフトボール部	24	軟式野球愛好会	25	保健愛好会	16		
卓球部	14	サイクリング愛好会	5	サブカルチャー愛好会	21		
テコンドー部	26	男子柔道愛好会	8	アカペラ愛好会	9		
バスケットボール部	20	サッカー愛好会 フランケンFC	18	料理・スイーツ研究愛好会	11		
		計	799	計	626		

加入者総計1,425名

平成23年度資格取得実績

■教員免許取得者数

免許名	取得者数	免許名	取得者数	免許名	取得者数
高校専修工業	3	高校一種理科	7	中学専修数学	2
高校専修理科	2	高校一種数学	9	中学一種数学	5
高校専修数学	3	高校一種情報	7	中学一種社会	7
高校一種工業	12	高校一種公民	8		

■エクステンションセンターで開講している資格講座の受験者数、合格者数

試験名	受験者数	合格者数
基本情報技術者	28	10
ITパスポート	42	27
MOS(Microsoft Office Specialist)	253	236
簿記検定3級	7	6
簿記検定2級	8	1
秘書検定3級	23	17
秘書検定2級	20	17
色彩検定2級	7	4
TOEIC	220	-

■各学部・学科で取得支援をしている資格の合格者数

試験名	合格者数	試験名	合格者数
応用情報技術者	2	工事担任者資格者	1
CCNA	1	第1級陸上特殊無線技士	8
基本情報技術者	14	技能検定機械系2級	28
Webクリエイター上級	22	技能検定機械系3級	36
ITパスポート	63	技能検定機械加工3級	3
第1級陸上無線技術士	3	パイオ技術認定	8
電気通信主任技術者	3	公害防止管理者	4
		eco検定試験	42

■短期大学部の資格合格者数

試験名	合格者数
ITパスポート	21
CG検定	13
建築CAD検定	11
日商PC検定	302
日本語検定	4
秘書検定	33
漢字検定	7
簿記検定	8
MOS(Microsoft Office Specialist)	8
福祉住環境コーディネータ	1
ホームヘルパー	1
秘書実務士	1
上級情報処理士	12
情報処理士	2
ウェブデザイン実務士	7
その他	2

国際交流

国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容					平成23年度交流学生数	
			教育研究活動交流	学年交流	教育・研究者交流	事務職員交流	留学生募集戦略	本学からの派遣	協定校学生の受入
米国	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	○	○	○	○		30	18
	オレゴン州立大学工学部	2002	○	○	○	○		4	0
	フットヒルカレッジ	1992	○	○	○			0	0
韓国	慶星大学校	1981	○	○	○	○		4	5
	亜州大学校	1990	○	○	○	○		0	2
	啓明大学校工学部	2009	○	○	○			0	1
中国	大連理工大学	1988	○	○	○			4	2
	南京理工大学	1993	○	○	○	○		1	2
	青島科技大学	2008	○	○	○	○	○	0	1
	北華大学	2008	○	○	○	○	○	0	6
タイ	キングモンクット工科大学	2008	○	○	○	○	○	0	23
	チュラロンコン大学理学部	2009	○	○	○	○		0	0
豪州	バララット大学	2001	○	○	○			0	10
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	○	○	○			0	0

研究活動

外部研究資金の取得実績推移

(単位:千円)

		H20	H21	H22	H23
外部研究助成金	金額	13,770	0	475	1,566
	件数	6	4	3	2
共同研究	金額	9,930	27,515	17,275	14,219
	件数	11	17	19	14
受託研究	金額	10,814	45,306	17,003	16,116
	件数	5	9	8	8
奨学寄付金	金額	7,700	4,450	7,467	3,500
	件数	8	7	6	5
計	金額	42,214	77,271	42,220	35,401
	件数	30	37	36	29

平成23年度論文等の発表実績

論文等区分	件数	論文等区分	件数
査読付論文	141	教科書	6
国際学会論文	145	学会発表	221
学術著書	20	紀要・研究会資料解説等	85

教育関係補助金の交付状況

私立大学等経常費補助金交付実績推移

(単位:千円)

区分	H19	H20	H21*	H22	H23
一般補助	385,287	360,027	0	350,247	531,528
特別補助	350,335	351,024	0	382,202	99,322
合計	735,622	711,051	0	732,449	630,850

*平成21年度は定員超過のため交付辞退

平成23年度文部科学省補助金交付実績

(単位:千円)

補助事業区分	事業名	交付金額
就業力育成支援事業	[4つの力]育成によるキャリア形成支援	18,296
大学教育・学生支援推進事業	キャリアプランニング支援と就活学び直しプラスワンプロジェクト	11,350
戦略的連携支援事業	短大コンソーシアム九州	1,826
計		31,472
私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備費等補助金	C棟トイレ衛生器具節水型器具への更新事業	5,561
	B6A室(学科イントラネット演習室)の設備更新	3,662
	CAE教室の設備更新	5,058
	モノづくりセンター工作機械の整備	5,696
計		19,977

附属施設

図書館蔵書数、利用者数推移

蔵書数	288,814冊 (平成24年3月末現在)			
年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
学内利用者	31,989	38,518	42,988	40,480
学外利用者	7,482	6,186	7,131	5,719
合計	39,471	44,704	50,119	46,199

情報処理センター利用者数推移

(単位:名)

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度
30,076	34,325	35,195	33,783

平成23年度エクステンションセンター受講者数

講座名	講座数	受講者数
情報関連講座	41	211
資格取得講座	69	399
文化教養講座	213	1,679
FIT講座	8	77
合計	331	2,366

平成23年度モノづくりセンター利用者数

利用者区分	利用者数
学生プロジェクト	11,510
研究	165
一般利用	1,788
見学	3,330
合計	16,793

校地・校舎

校地・校舎概要

建物名	主な設備、用途	延床面積(m ²)	建築年
A棟	クリーンルーム、講義室27、演習室14、実験室16、研究室79、卒研室34	18,040	平成13年
B棟	学生サービスセンター、情報処理センター、レストラン、保健室、カウンセリング室、講義室19、演習室11、実験室11、研究室44、卒研室22	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、講義室8、実験室6、研究室27、卒研室23	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、実験室11、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
α棟	モノづくりセンター、キャリアサポートセンター、多目的ホール(収容人数200人)、自習室	1,750	平成11年
本部棟	図書館、エクステンションセンター、フレッシュマンスクール、次世代マイクロナノ金型開発センター、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容人数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数102、収容人数220人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数71、収容人数100人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮	1,102	平成4年
和白グラウンド	高校部活動用地他	32,297	—
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	16,454	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、ソフトボール場	4,533	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

収入の部 (単位:千円)	
科目	決算
学生生徒等納付金収入	5,978,616
手数料収入	148,710
寄付金収入	29,653
補助金収入	1,297,270
資産運用収入	155,794
事業収入	172,234
雑収入	515,014
前受金収入	1,720,160
その他の収入	1,416,294
資金収入調整勘定	△ 2,098,573
前年度繰越支払資金	2,122,445
収入の部合計	11,457,617

支出の部

科目	決算
人件費支出	5,020,325
教育研究経費支出	1,720,868
管理経費支出	648,479
借入金等返済支出	60,000
施設関係支出	1,220,032
設備関係支出	242,029
資産運用支出	514,200
その他の支出	268,842
資金支出調整勘定	△ 262,665
次年度繰越支払資金	2,025,508
支出の部合計	11,457,617

■貸借対照表 (平成24年3月31日現在)

資産の部 (単位:千円)	
科目	23年度末残高
固定資産	31,180,950
有形固定資産	21,160,001
土地	3,108,933
建物	14,089,470
構築物	1,393,558
教育研究用機器備品	1,386,903
その他の機器備品	41,835
図書	1,062,307
車両	28,230
建設仮勘定	48,765
その他の固定資産	10,020,949
借地権	19,805
電話加入権	5,157
施設利用権	19,240
預託金	24,745
保証金	450
長期有価証券	2,226,352
退職給与引当特定資産	1,700,000
施設拡充引当特定資産	4,525,200
教育設備引当特定資産	500,000
第3号基本金引当特定資産	1,000,000
流動資産	2,604,057
現金預金	2,025,508
その他流動資産	578,549
資産の部合計	33,785,007

■消費収支計算書 (平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

消費収入の部 (単位:千円)	
科目	決算
学生生徒等納付金	5,978,616
手数料	148,710
寄付金	55,253
補助金	1,297,270
資産運用収入	153,684
事業収入	172,234
雑収入	489,890
帰属収入合計	8,295,656
基本金組入額合計	△ 1,185,313
消費収入の部合計	7,110,343

消費支出の部

科目	決算
人件費	4,869,044
教育研究経費	2,536,519
管理経費	717,265
資産処分差額	6,774
徴収不能引当金繰入額等	210
消費支出の部合計	8,129,813
当年度消費支出超過額	1,019,470
前年度繰越消費支出超過額	1,362,718
基本金取崩額	6,455
翌年度繰越消費支出超過額	2,375,733

負債の部

負債の部 (単位:千円)	
科目	23年度末残高
固定負債	1,925,506
長期借入金	180,000
退職給与引当金	1,712,122
長期未払金	33,384
流動負債	2,331,982
短期借入金	60,000
未払金	236,433
前受金	1,720,160
預り金	301,627
仮受金	13,762
負債の部合計	4,257,488

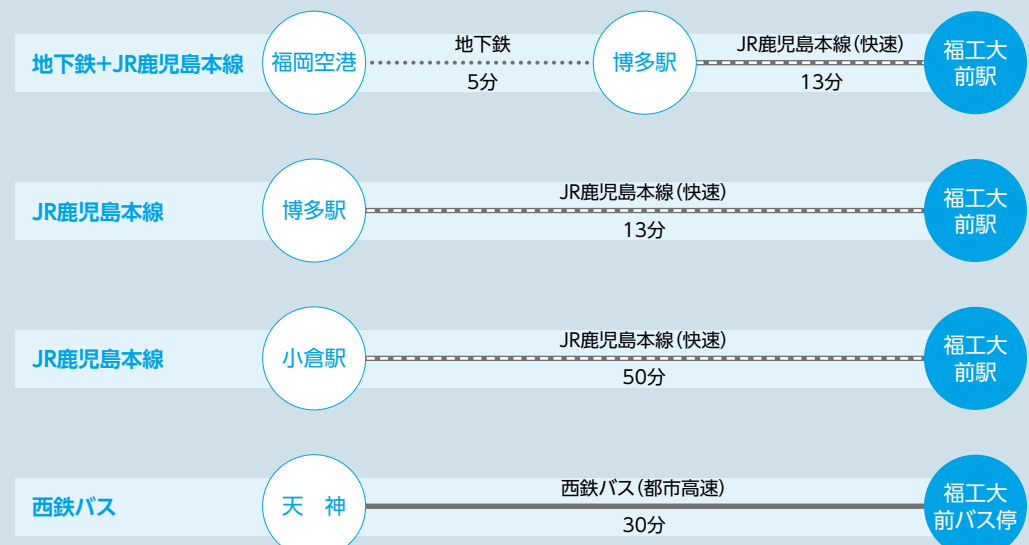
基本金の部

科目	23年度末残高
第1号基本金	30,399,251
第3号基本金	1,000,000
第4号基本金	504,000
基本金の部合計	31,903,251

消費収支差額の部

科目	23年度末残高
翌年度繰越消費支出超過額	△ 2,375,732
消費収支差額の部合計	△ 2,375,732

負債の部・基本金の部及び消費収支差額の部合計	33,785,007
-------------------------------	-------------------



※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

平成23年度

教育・研究活動報告書

(取組成果のご報告)

編集/福岡工業大学 IRプロジェクト

発行/平成24年6月

福岡工業大学

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号 TEL: 092-606-0619 FAX: 092-606-8923